

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|--------|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 野生動物救護法 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺幸 介 |
| 学科・コース | エココミュニケーション科 昼二2年 | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、総合ペットショップ勤務、現在は生態科学研究機構副理事長。移動動物園、動物関連番組の監修等をしている | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 動物看護の分野は、ペットの分野だけでなく、野生動物の救護や動物園等の展示動物の診療をする病院での仕事など広がりを見せている。そうしたことから野生動物について学ぶ必要性が高まっている。この授業では「日本の野生動物の種類と保全について」と「動物園等の展示動物についてと保全や役割などについて」学び基本を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本に生息する野生動物の種類と特徴の概要を説明できる。 ・野生動物が関わる問題と保全の概要について説明できる。 ・飼育下繁殖と動物園の役割を説明できる。 ・野生動物獣医療の概要を説明できる。 ・野生動物の福祉上の問題点とその対策を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験: 80% 出席率・課題レポート: 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------------------------|----|------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 導入(授業について)日本の野生動物について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 2 | | 講義 | 野生動物の種類と特徴について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 3 | | 講義 | 野生動物と傷病動物 | 授業の復習(ノート整理) |
| 4 | | 講義 | 野生動物の保全(野生動物とは) | 授業の復習(ノート整理) |
| 5 | | 講義 | 野生動物の保全(調査法と環境) | 授業の復習(ノート整理) |
| 6 | | 講義 | 野生動物の保全(人の暮らしとの関連) | 授業の復習(ノート整理) |
| 7 | | 講義 | 野生動物の保全(動物園) | 授業の復習(ノート整理) |
| 8 | | 講義 | 野生動物の保全(水族館) | 授業の復習(ノート整理) |
| 9 | | 講義 | 野生動物の保全(関連法規) | 授業の復習(ノート整理) |
| 10 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物救護について学ぶ | 授業の復習(ノート整理) |
| 11 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物の病気と事故 | 授業の復習(ノート整理) |
| 12 | | 講義 | 野生動物の福祉① 野生動物の福祉について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 13 | | 講義 | 野生動物の福祉② 希少動物やエキゾチックペットの商業取引について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 14 | | 定期試験 | 筆記試験 | 前期まとめと整理 |
| 15 | | 講義 | 振り返りとまとめ | 試験見直しとわからないところの確認 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて随時、書籍を使用。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|---------------|
| 科目名 | 植物学 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 中西由美子 川端白人 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二二年 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 環境系コンサルタント会社・NPO法人勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 植物の生態系における役割や働き、植物の個々の部分の形態的な特徴や生活の仕方など、生物の時間で勉強するような内容ですが、これからも植物の知識を深めていく際の基礎になる部分です。テキストだけでなく、ぜひとも身近な植物も手に取って観察するようにしてください。覚えたものは、早速庭や公園で植わっているものでも確かめてください。また、生活と関わる植物についても注目してください。年中行事や伝統的な行事にも目を向け、植物がどうかかわってきたかにも興味をもって、家族や年配の人たちにも尋ねてみてください。 | | | | | | |
| 到達目標 | グリーンセイバー検定 ベイシックに合格する実力をつけること。 ベイシックでは、植物に関する基本的な知識や生態系の知識をもつとともに、人と自然の関係を身近なところから理解することを目標としている。 植物の外部形態、生活史、生息環境、植物の分類の基礎、植物の文化、植物のめぐみ が、ベイシックテキストの項目となっているが、これらの内容を理解し、6月末の検定試験に臨む実力をつけること。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 通常の授業の受講態度 40% 模擬試験 60% 筆記試験評価: GPA (S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------|----|--|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 「植物分類の基礎知識」 分類の歴史と地質時代における植物の進化の歴史を理解することができる。 | グリーンセイバーのサイトをチェックする |
| 2 | | 講義 | 「植物の外部形態」 植物の各部位の基本的形態と役割機能を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 3 | | 講義 | 「植物の生活史と生育特性」 植物の生育型と生活史の特徴を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 4 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物の日常管理の基本や移植方法の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 5 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物を増やすための有性生殖と無性生殖の基本を理解し、個々の方法を習得する。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 6 | | 講義 | 「植物の文化」 文化の基礎となる季節や暦と植物との関連を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 7 | | 講義 | 「植物のめぐみ」 木材の利用方法から農耕、里山の伝統的利用について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 8 | | 講義 | 「植物の生育環境」 環境の物理的要素と植物との関わりと各条件による影響の受け方を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 9 | | 講義 | 「植生の基礎知識」 植生の種類を知り、世界と日本の植生帯の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 10 | | 演習 | 長野県大町市の「千年の森 自然学校」において植物全般の識別をすることができる。 | 人工林から派生した二次林について事前に調べておく事 (ミズナラ・コナラ・スギ・ヒ・ホウキ・リウウなど) |
| 11 | | 講義 | 「生態系の基礎知識」 生態系の構成要素を理解し、食物連鎖などの関係性を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 12 | | 講義 | 「生態系と物質循環」 水や空気、炭素、窒素など、生態系を構成する物質の循環について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 13 | | 講義・試験 | グリーンセイバー模擬試験・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 14 | | 演習 | 「里山の魅力再発見」 人が里山に関心を持ち、集まるようにする工夫をプレゼンできる。 | |
| 15 | | 講義 | テストの答え合わせと解説 模擬試験の自己採点を行い、自分にとっての課題を把握することができる。 | テキストを見ながら仮に答え合わせをする。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グリーンセイバーベイシック(テキスト) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|---------------|
| 科目名 | 植物学 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 中西由美子 川端白人 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二二年 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 環境系コンサルタント会社・NPO法人勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 植物の生態系における役割や働き、植物の個々の部分の形態的な特徴や生活の仕方など、生物の時間で勉強するような内容ですが、これからも植物の知識を深めていく際の基礎になる部分です。テキストだけでなく、ぜひとも身近な植物も手に取って観察するようにしてください。覚えたものは、早速庭や公園で植わっているものでも確かめてください。また、生活と関わる植物についても注目してください。年中行事や伝統的な行事にも目を向け、植物がどうかかわってきたかにも興味をもって、家族や年配の人たちにも尋ねてみてください。 | | | | | | |
| 到達目標 | グリーンセイバー検定 ベイシックに合格する実力をつけること。 ベイシックでは、植物に関する基本的な知識や生態系の知識をもつとともに、人と自然の関係を身近なところから理解することを目標としている。 植物の外部形態、生活史、生息環境、植物の分類の基礎、植物の文化、植物のめぐみ が、ベイシックテキストの項目となっているが、これらの内容を理解し、6月末の検定試験に臨む実力をつけること。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 通常の授業の受講態度 40% 模擬試験ト60% 筆記試験評価: GPA (S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------|----|--|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 「植物分類の基礎知識」 分類の歴史と地質時代における植物の進化の歴史を理解することができる。 | グリーンセイバーのサイトをチェックする |
| 2 | | 講義 | 「植物の外部形態」 植物の各部位の基本的形態と役割機能を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 3 | | 講義 | 「植物の生活史と生育特性」 植物の生育型と生活史の特徴を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 4 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物の日常管理の基本や移植方法の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 5 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物を増やすための有性生殖と無性生殖の基本を理解し、個々の方法を習得する。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 6 | | 講義 | 「植物の文化」 文化の基礎となる季節や暦と植物との関連を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 7 | | 講義 | 「植物のめぐみ」 木材の利用方法から農耕、里山の伝統的利用について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 8 | | 講義 | 「植物の生育環境」 環境の物理的要素と植物との関わりと各条件による影響の受け方を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 9 | | 講義 | 「植生の基礎知識」 植生の種類を知り、世界と日本の植生帯の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 10 | | 演習 | 長野県大町市の「千年の森 自然学校」において植物全般の識別をすることができる。 | 人工林から派生した二次林について事前に調べておく事 (ミズナラ・コナラ・スギ・ヒノキ・リウグウなど) |
| 11 | | 講義 | 「生態系の基礎知識」 生態系の構成要素を理解し、食物連鎖などの関係性を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 12 | | 講義 | 「生態系と物質循環」 水や空気、炭素、窒素など、生態系を構成する物質の循環について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 13 | | 講義・試験 | グリーンセイバー模擬試験・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 14 | | 演習 | 「里山の魅力再発見」 人が里山に関心を持ち、集まるようにする工夫をプレゼンできる。 | |
| 15 | | 講義 | テストの答え合わせと解説 模擬試験の自己採点を行い、自分にとっての課題を把握することができる。 | テキストを見ながら仮に答え合わせをする。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グリーンセイバーベイシック(テキスト) | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------|----|---|-----------|
| 科目名 | 生物分類研究 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 菅野宏史 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義・演 習 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | 学芸員として現場での動物管理経験あり。また現在は執筆活動を主に行っており、多数著書あり。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年大きく変わりつつある生物分類の体制において、最新の知識を身につける。五界説の動物界または3ドメインセオリーのオピストコンタ界動物界の門・綱・目のレベルまでの分類体制を講義において行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 高校時に履修すべき項目はもちろんのこと、専門学校生として一歩進んだ知識を身につけ、動物園・水族館・企業などの採用試験に対応できる学力を培う。また、生物分類技能検定3級において、動物における設問はすべて解答できる学力を身につける。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率70%以上 2点 80%以上 3点 90%以上 5点 上記の点数を筆記試験に加算する。 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|--|-------|-------------------------------|-----------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 生物の分類;分類の概念 | 分類の必要性を考える。 |
| 2 | 講義 | 現在の分類方法;表形、分岐 他 | 身近な生物を数種仲間分け。 |
| 3 | 講義 | リンネ式分類学;階級、学名 | 動物を1種選び門~属までを調べる。 |
| 4 | 講義 | 種 の概念;定義・形態的・生物的 | 雑種が種ではない理由を調べる。 |
| 5 | 講義 | 学名;国際動物命名規約、二名法 | 動物を1種選び学名を調べる。 |
| 6 | 講義 | 生物分類の大綱;五界説の動物界 | 生物を5つの界に分けた理由を調べる。 |
| 7 | 講義 | 最新の分類法;古細菌と3ドメイン | 五界説の矛盾を調べる。 |
| 8 | 講義 | 生物の体制;分散型と集中型 | 各体制の生物を数種調べる。 |
| 9 | 講義 | 脊椎動物通性 I ;骨格等 | 頸椎の数が7つではない哺乳類を調べる。 |
| 10 | 講義 | 脊椎動物通性 II ;呼吸・消化 | 左右対称の呼吸器を持たないものを調べる。 |
| 11 | 講義 | 脊椎動物通性 III ;筋肉・感覚器 | 目、耳などの感覚器を持たないものを調べる。 |
| 12 | 講義 | 伊豆水族館実習(水生) 大町自然学校実習(野生) | 実習の準備 |
| 13 | 講義 | 大島ダイビング実習(水生) 相模湖カヌー実習(野生) | 実習の準備 |
| 14 | 講義・試験 | 前期試験・ペーパーテスト実施 | 試験に対する準備を行う。 |
| 15 | 講義 | 試験解答および全過程の総括 | 理解しなかった項目を調べる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 予めテーマを出題し、当日までに調べるまたは作成する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】(社)日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック・水族館編」Ⅲ (参考書)内田亨著(1965)「動物系統分類の基礎」(株式会社 北隆館) | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | 動物の栄養と管理 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 酒谷 |
| 学科・コース | エココミュニケーション科 2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 獣医科大学にて動物の心臓病および腎臓病の研究中 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 授業形式としては、独自で作成したスライドを配布するので、それに書き込みながら学んでいただくというものです。内容としては、犬・猫の栄養学についてであり、必要な知識を深めることはもちろんのこと、実際に動物のご家族に伝えたり、アドバイスできる能力を習得できることが本授業の特徴です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 5大栄養素の特徴について説明することができる。 2) 犬・猫のBCSを評価し、適切な食事を算出することができる。 3) 犬・猫に与えてはいけない食物を理解し、その理由を説明することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1. 定期試験: 90% (14週目に筆記試験を実施) 2. 講義中の態度および出席率: 10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------|----|-------|--|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 5大栄養素 (5大栄養素の特徴、そして栄養学を学ぶことの重要性が理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 2 | | 講義 | 炭水化物 (栄養素の特徴、そして糖質と繊維の違いを理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 3 | | 講義 | たんぱく質 (栄養素の特徴、そして犬・猫の必須アミノ酸の役割を理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 4 | | 講義 | 脂質 (栄養素の特徴、そして犬・猫の必須脂肪酸の役割を理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 5 | | 講義 | ビタミン① (脂溶性ビタミンの特徴、そしてその過剰または欠乏症による影響を理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 6 | | 講義 | ビタミン② (水溶性ビタミンの特徴、そしてその過剰または欠乏症による影響を理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 7 | | 講義 | ミネラル (ミネラルの特徴、そしてその過剰または欠乏症による影響を理解できる) | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 8 | | 講義 | エネルギー要求量 (RER, DERなど) の意味、そして計算方法を理解できる。 | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 9 | | 講義 | 栄養状態の評価法 (BCS, 体脂肪率など), そして飼養標準 (AAFCO) について理解できる。 | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 10 | | 講義 | ライフステージ (成長期, 維持期, 高齢期など) を考慮した上での栄養管理の特徴が理解できる。 | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 11 | | 講義 | ペットフードの種類、そして分類について理解できる。 | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 12 | | 講義 | 犬・猫に与えてはいけない食物、そして中毒について理解できる。 | 1.5時間: 指定教科書にて予復習 |
| 13 | | 演習・講義 | 前期の授業内容の総復習 | 1.5時間: 授業スライドの復習 |
| 14 | | 定期試験 | 定期試験の実施 (筆記試験) | 1.5時間: 授業スライドの復習 |
| 15 | | 振り返り | 定期試験の解説 | 1.5時間: 試験問題の見直し・復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 指定教科書での学習で充たす。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 動物看護の教科書 増補改訂版, 第4巻(緑書房) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | アウトドアインストラクター I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木大樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | 旅行会社での経験を活かし、現在はアウトドアイベント企画・運営を行っている。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 基本的なアウトドアの知識・技術を身につける事は、本専攻が関わりえる分野のさまざまな場面で必要不可欠です。また、環境教育の仕組みや成り立ちを学び、企画の立案、実施等を可能にする知識・技術をネイチャーフレンドシップ・エコツアープランニングの授業を通して学びます。アウトドアと環境教育の企画などから一つのイベントが作成できる事はもちろんですが、何よりも大事にして欲しい安全管理・リスクマネジメントを授業・実習を通して吸収し、プロとして現場での確に運用できるよう学習してください。授業は座学が中心ですが、実習での実技講習でも学習します。*実習等準備のため、内容に変更がある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 授業・演習・実習の中で基本的なテント等の設営、火の扱い、刃物の扱い、整備ができるようになる。日本国内における地域による植生の違いを理解する。また、地図上で地形を把握できるようになる。体験により実際に環境教育に触れ環境教育と自然のつながりを理解する。また、必要な動植物の知識を習得する。演習・実習を通して各個人での判断や決断、安全管理・リスクマネジメントができるようになる。自然の動植物・植生や自然環境に不思議や疑問を持ち自身で考察、結論が出せるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 実習レポート20% 定期試験:80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|---|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 前期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | 個人としての目的、目標を策定し将来のイメージを持つ。 |
| 2 | | 講義 | 大町実習に向けての概要説明、実習を行う事の目的、目標、意味を理解することができる。 | 個人としての将来イメージと実習の目的、目標をリンクさせ学ぶべき点を確認・理解する。 |
| 3 | | 講義 | 実習の目的、目標に応じての企画立案のためのアイデアを出し合い共有し叩き台を作成する。 | |
| 4 | | 講義 | 大町実習に向けて生活役割の必要性を説明し理解する。学生自身での実習全体の目的、目標の設定ができる。役割を理解した上で各役割の説明、役割を定める。 | 概要説明を理解し各役割について理解する。 |
| 5 | | 講義・演習 | 実習事前学習:地図講習 基礎、偏差、等高線、谷線・尾根線を理解できる。 | 配布資料(山岳ナビゲーション)読み理解する。 |
| 6 | | 講義・演習 | 実習プログラム配布 概要説明、内容の読み合わせを行い理解できる。 | 実習地である長野県大町市の気候や植生を調べ理解する。 |
| 7 | | 講義・演習 | 個人装備 個人での装備のノウハウを学び、持ち物の選定、パッキングができるようになる。 | 配布済みのプログラムを元に学生間でのコミュニケーションをとる。また、必要な装備類の知識を学習する。 |
| 8 | | 講義・演習 | 団体装備 個人との違いを知り、多数での装備の必要性や分担、コミュニケーションを理解する。 | |
| 9 | | 講義・演習 | 実習前最終ミーティング。個人・団体共に最終的な確認を行い学生全員で共有し理解する。また、学生主導でできる。 | |
| 10 | | 演習 | 実習プログラム アウトドア基礎、動植物ガイド、安全管理、環境教育 | 配布済みのプログラムを熟読しタイムスケジュール、時間間隔を理解する。また、各プログラムに応じた学習内容をイメージし必要に応じた準備ができる。 |
| 11 | | 演習 | | |
| 12 | | 演習 | | |
| 13 | | 講義 | 実習を振り返り現場で学んだものを再度整理し理解を深めることができる。 | 実習中の資料やメモなどを使い学んだ事柄をまとめ理解する。 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験60分 | 試験範囲の対策 |
| 15 | | 講義 | 実習・試験を振り返ることで知識面+現場力双方の理解を深め、体現できる。 | 実習、試験の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事前学習を行う事により新たに気づく事を促し、事後学習で理解した内容の落とし込みを図る。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 山岳ナビゲーション/山のエマーゼンシー/環境を守る最新知識~自然生態系のしくみとその守り方~ 子供と自然とネイチャーゲーム/五感で楽しむ野草図鑑/五感で楽しむ樹木図鑑/国土地理院地図 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | アウトドアインストラクター I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木大樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | 旅行会社での経験を活かし、現在はアウトドアイベント企画・運営を行っている。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 基本的なアウトドアの知識・技術を身につける事は、本専攻に関わりえる分野のさまざまな場面で必要不可欠です。また、環境教育の仕組みや成り立ちを学び、企画の立案、実施等を可能にする知識・技術をネイチャーフレンドシップ・エコツアープランニングの授業を通して学びます。アウトドアと環境教育の企画などから一つのイベントが作成できる事はもちろんですが、何よりも大事にして欲しい安全管理・リスクマネジメントを授業・実習を通して吸収し、プロとして現場で的確に運用できるよう学習してください。授業は座学が中心ですが、実習での実技講習でも学習します。*実習等準備のため、内容に変更がある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 授業・演習・実習の中で基本的なテント等の設営、火の扱い、刃物の扱い、整備ができるようになる。日本国内における地域による植生の違いを理解する。また、地図上で地形を把握できるようになる。体験により実際に環境教育に触れ環境教育と自然のつながりを理解する。また、必要な動植物の知識を習得する。演習・実習を通して各個人での判断や決断、安全管理・リスクマネジメントができるようになる。自然の動植物・植生や自然環境に不思議や疑問を持ち自身で考察、結論が出せるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 実習レポート20% 定期試験:80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|---|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 前期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | 個人としての目的、目標を策定し将来のイメージを持つ。 |
| 2 | | 講義 | 大町実習に向けての概要説明、実習を行う事の目的、目標、意味を理解することができる。 | 個人としての将来イメージと実習の目的、目標をリンクさせ学ぶべき点を確認・理解する。 |
| 3 | | 講義 | 実習の目的、目標に応じての企画立案のためのアイデアを出し合い共有し叩き台を作成する。 | |
| 4 | | 講義 | 大町実習に向けて生活役割の必要性を説明し理解する。学生自身での実習全体の目的、目標の設定ができる。役割を理解した上で各役割の説明、役割を定める。 | 概要説明を理解し各役割について理解する。 |
| 5 | | 講義・演習 | 実習事前学習:地図講習 基礎、偏差、等高線、谷線・尾根線を理解できる。 | 配布資料(山岳ナビゲーション)読み理解する。 |
| 6 | | 講義・演習 | 実習プログラム配布 概要説明、内容の読み合わせを行い理解できる。 | 実習地である長野県大町市の気候や植生を調べ理解する。 |
| 7 | | 講義・演習 | 個人装備 個人での装備のノウハウを学び、持ち物の選定、パッキングができるようになる。 | 配布済みのプログラムを元に学生間でのコミュニケーションをとる。また、必要な装備類の知識を学習する。 |
| 8 | | 講義・演習 | 団体装備 個人との違いを知り、多数での装備の必要性や分担、コミュニケーションを理解する。 | |
| 9 | | 講義・演習 | 実習前最終ミーティング。個人・団体共に最終的な確認を行い学生全員で共有し理解する。また、学生主導でできる。 | |
| 10 | | 演習 | 実習プログラム アウトドア基礎、動植物ガイド、安全管理、環境教育 | 配布済みのプログラムを熟読しタイムスケジュール、時間間隔を理解する。また、各プログラムに応じた学習内容をイメージし必要に応じた準備ができる。 |
| 11 | | 演習 | | |
| 12 | | 演習 | | |
| 13 | | 講義 | 実習を振り返り現場で学んだものを再度整理し理解を深めることができる。 | 実習中の資料やメモなどを使い学んだ事柄をまとめ理解する。 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験60分 | 試験範囲の対策 |
| 15 | | 講義 | 実習・試験を振り返ることで知識面+現場力双方の理解を深め、体現できる。 | 実習、試験の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事前学習を行う事により新たに気づく事を促し、事後学習で理解した内容の落とし込みを図る。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 山岳ナビゲーション/山のエマーゼンシー/環境を守る最新知識~自然生態系のしくみとその守り方~ 子供と自然とネイチャーゲーム/五感で楽しむ野草図鑑/五感で楽しむ樹木図鑑/国土地理院地図 | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|--------------|
| 科目名 | アニマルフィットネス I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 千葉路子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 本授業は、犬の健康を維持し、かつ強化するために必要な基礎知識を学んでいきます。その知識をいかに形にして行くかをそれぞれで考えていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 一般の犬たちだけでなく、老犬、障害犬…など、問題のある犬に対しても、正しいフィットネス運動の指導ができるようになり、かつ、その効果が出せるようにするためにはどうしたらいいかを考えていきます。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(14週目に実技試験)を実施 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|---------------------------------------|---------|-------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 『フィットネス』の需要と供給についてを学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 2 | | 講義 | 犬種によって異なる、犬の筋肉の構造について学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 3 | | 講義 | 『歩様アセスメント』の意味と、実践 | 学校犬2頭 | で歩様アセスメントの復習で 充当。 |
| 4 | | 演習 | 筋力強化方法1 バランスボールの効果について学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 5 | | 演習 | 筋力強化方法2 バランスボールへの犬のアプローチ方法 | 学校犬2頭 | でバランスボールの復習で充 当。 |
| 6 | | 演習 | マニュアルセラピー1 基礎的なマッサージの手順と方法について学びます。 | 学校犬2頭 | でマッサージの復習で充当。 |
| 7 | | 講義 | 筋力強化2 +マッサージ バランスボールをした後、拘縮した筋肉をほぐします | 学校犬2頭 | でマッサージの復習で充当。 |
| 8 | | 演習 | 筋力強化3 より難易度の高いバランスボールの方法について学びます | 学校犬2頭 | でバランスボールの復習で充 当。 |
| 9 | | 演習 | マニュアルセラピー3 ストレッチと関節について学びます | 学校犬2頭 | でストレッチの復習で充当。 |
| 10 | | 講義 | マニュアルセラピー 4 問題に対処するマッサージの方法を学びます | 飼い主の間 | で問題となっている運動器系の疾患を調べておく |
| 11 | | 講義 | ドッグスポーツの考え方と、その効果、および、問題点について学びます | ドッグスポーツ | で問題となっている身体上のトラブルを調べておく |
| 12 | | 講義 | 水中運動の効果について学びます | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 13 | | 講義 | 『水難救助犬』とは、どんな犬たちなのか。その実態とトレーニング | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 14 | | 演習 | テスト | | |
| 15 | | 演習 | 振り返り | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | アニマルフィットネス I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 千葉 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 本授業は、犬の健康を維持し、かつ強化するために必要な基礎知識を学んでいきます。その知識をいかに形にして行くかをそれぞれで考えていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 一般の犬たちだけでなく、老犬、障害犬…など、問題のある犬に対しても、正しいフィットネス運動の指導ができるようになり、かつ、その効果が出せるようにするためにはどうしたらいいかを考えていきます。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(14週目に実技試験)を実施 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|---------------------------------------|---------|-------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 『フィットネス』の需要と供給についてを学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 2 | | 講義 | 犬種によって異なる、犬の筋肉の構造について学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 3 | | 講義 | 『歩様アセスメント』の意味と、実践 | 学校犬2頭 | で歩様アセスメントの復習で 充当。 |
| 4 | | 演習 | 筋力強化方法1 バランスボールの効果について学ぶ | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 5 | | 演習 | 筋力強化方法2 バランスボールへの犬のアプローチ方法 | 学校犬2頭 | でバランスボールの復習で充 当。 |
| 6 | | 演習 | マニュアルセラピー1 基礎的なマッサージの手順と方法について学びます。 | 学校犬2頭 | でマッサージの復習で充当。 |
| 7 | | 講義 | 筋力強化2 +マッサージ バランスボールをした後、拘縮した筋肉をほぐします | 学校犬2頭 | でマッサージの復習で充当。 |
| 8 | | 演習 | 筋力強化3 より難易度の高いバランスボールの方法について学びます | 学校犬2頭 | でバランスボールの復習で充 当。 |
| 9 | | 演習 | マニュアルセラピー3 ストレッチと関節について学びます | 学校犬2頭 | でストレッチの復習で充当。 |
| 10 | | 講義 | マニュアルセラピー 4 問題に対処するマッサージの方法を学びます | 飼い主の間 | で問題となっている運動器系の疾患を調べておく |
| 11 | | 講義 | ドッグスポーツの考え方と、その効果、および、問題点について学びます | ドッグスポーツ | で問題となっている身体上のトラブルを調べておく |
| 12 | | 講義 | 水中運動の効果について学びます | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 13 | | 講義 | 『水難救助犬』とは、どんな犬たちなのか。その実態とトレーニング | 朝2h | 夕2h 学校犬の飼育当番で飼育犬の管理ができる |
| 14 | | 演習 | テスト | | |
| 15 | | 演習 | 振り返り | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------|--|---|----------|----|-------------|---|------|-------|
| 科目名 | アニマルベーシックⅠ1 | | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 菅野 宏文 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼ー3年制 | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 日本蛇族学術研究所・研究員、伊豆アンディランド 学芸員、現在は執筆活動 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 体のしくみ | 消化系・循環系・排出系・呼吸系・神経系・感覚器などの動物の器官の構造と機能。 | | | | | | |
| | ベーシック | 細胞の構造と機能、消毒滅菌、ズーノーシス、PHと浸透圧、DNAとRNA、メンデルと遺伝。 | | | | | | |
| | ヒストリー | 動物の分類（分類の概念・単位、種の定義、学名、分類大綱）、生物学の歴史と生命の誕生、生物の進化。 | | | | | | |
| 到達目標 | 高校時に履修すべき知識はもちろんのこと、専門学生として1歩進んだ知識を身に付け、動物園、水族館、企業等の採用試験及び業務に対応できる学力を培う。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率 | 70%以上 | 2点 | | | | | |
| | | 80%以上 | 3点 | | | | | |
| | | 90%以上 | 5点 | | | | | |
| | | 上記の点数を筆記試験に加算する。 | | | | | | |
| | 筆記試験評価 | GPA〔A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0（不合格）となる。〕 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---|----|------|-----------------|--------------------------------------|------------------|
| 日数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間外学習（学習課題） |
| 1 | | 講義 | 消毒・滅菌 | 代表的な消毒方法と特性 | 本日の講義の復習。 |
| 2 | | 講義 | ズーノーシス | ズーノーシス 対策代表的な人獣共通感染症 | 〃 |
| 3 | | 講義 | pHと浸透圧 | pHとは何か、浸透圧とその計算 pHの表し方、ファントホッフの公式 | 〃 |
| 4 | | 講義 | DNAとRNA | 構造及び、機能トリプレットコードの解読 | 〃 |
| 5 | | 講義 | メンデルと遺伝I | 遺伝と変異と進化 メンデルの遺伝の法則 | 〃 |
| 6 | | 講義 | メンデルと遺伝II | 遺伝子の相互作用 優性・独立の法則の例外 | 〃 |
| 7 | | 講義 | 性と遺伝 | 性の決定と性染色体 性決定の型 伴性及び限性遺伝 | 〃 |
| 8 | | 講義 | 動物の分類 | 分類の概念 分類の単位 | 〃 |
| 9 | | 講義 | 種の定義と学名 | 形態学的及び生物学的種 種の隔離と雑種・亜種、二名式命名法 | 〃 |
| 10 | | 講義 | 生物学の歴史と生命の誕生 | 生物発生説及び生命の誕生 生命体の条件 | 〃 |
| 11 | | 講義 | 生物の進化I | 進化論諸説の解説 及び長所と短所 | 〃 |
| 12 | | 講義 | 生物の進化II | 近年の進化論について | 〃 |
| 13 | | 研修 | 海外研修 | | 訪問する国の動物について調べる。 |
| 14 | | 試験 | 期末試験（ペーパーテスト実施） | | 試験に対する準備を行う |
| 15 | | 講義 | 試験解答及び全過程の総括 | | 理解しにくかった項目を予め調べる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 高山清次監修「動物年表で知るアニマルヒストリー」 滋慶教育科学研究所監修「ECO業界で役立つ基礎生物」 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|----|
| 科目名 | アニマルベーシックⅠⅡ | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 島田 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 Ⅲ-3 年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | 獣医師 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年、社会における人々の意識の多様化に伴い、動物の飼育に対する意識も急速に変化している。そのような状況で動物を取り扱う業界に求められるニーズも日々変化しており、動物の専門家にも高度な知識や技術が要求される様になっている。本講義では、そのような高度な知識や技術の土台として、動物飼養や健康管理の基本や生物の基礎知識を習得することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼養や健康管理の基本、生物の基礎知識である細胞や遺伝子、動物の体の基本構造や機能を理解すると共に、動物の専門家が現在どのような知識や技術を身につけなければならないかを知り、実感すること。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(期末テスト)100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|---|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月11日 | 講義 | 基礎生物(生物知識の基本である進化・食物連鎖・公衆衛生に関して理解・説明ができる) | 教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 2 | 4月18日 | 講義 | 基礎生物(動物医療に関する検査・診断・治療の流れや使用器具に関して理解・説明ができる) | 教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 3 | 4月25日 | 講義 | 基礎生物(飼育現場において必要である栄養に関する基礎、繁殖や遺伝に関して理解・説明ができる) | 教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 4 | 5月9日 | 講義 | 基礎生物(様々な動物における家畜化のプロセスや家畜化の意義を理解・説明ができる) | 教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 5 | 5月16日 | 講義 | 基礎生物(生物多様性の意味や環境保全の取り組みに関して理解し、具体的に説明できる) | 教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 6 | 5月30日 | 講義 | アニマルヒストリー(愛玩動物、家畜動物、展示動物など様々な動物と人との関わり方を理解し説明できる) | 教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 7 | 6月13日 | 講義 | アニマルヒストリー(最近のペット事情の動向を知り、具体的なビジネスの概要を理解・説明ができる) | 教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 8 | 6月20日 | 講義 | アニマルヒストリー(AAAとAATの違いや、動物を介する利点/不利点を理解し説明できる) | 教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 9 | 6月27日 | 講義 | アニマルヒストリー(社会における使役犬の役割や必要性を理解・説明ができる) | 教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 10 | 7月4日 | 講義 | アニマルヒストリー(畜産業の最近の動向並びに具体的な畜産動物に関して理解・説明できる) | 教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 11 | 7月11日 | 講義 | 動物の飼養管理(動物園・水族館の存在意義や愛玩動物との相違点を理解・説明できる) | 教科書(動物の飼養管理)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 12 | 7月18日 | 講義 | 動物の飼養管理(ペットと産業動物の違いを理解・説明できる) | 教科書(動物の飼養管理)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する |
| 13 | 9月5日 | 講義 | 前期の総復習(前期の授業の需要点を把握し、自分の言葉で説明できる) | 授業ノートの内容確認 試験勉強 |
| 14 | 9月12日 | 講義 | テスト | 試験勉強 テストで分からなかった箇所の復習 |
| 15 | 9月19日 | 講義 | 振り返り(テストの間違った点の修正並びに理解ができる) | テストで分からなかった箇所の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書を読む 授業ノートの補完 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| ECO 専門基礎科目テキスト | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|-----------|
| 科目名 | エキゾチックアニマルⅠⅠ | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 長嶺幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | 牧場、ペットショップスタッフ経験を経て、現在は移動動物園スタッフとしても活動中。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年、エキゾチックアニマルは、動物園・水族館、ペットショップ、動物病院、のみならずカフェやふれあい施設など扱う機会が多い。基本的なエキゾチックアニマルの中でも主に哺乳類と鳥類の中からピックアップした種について、分類、行動や習性・生理などを含む生態、などを理解し、適切な取扱と飼育管理ができることを目指す。 | | | | | |
| 到達目標 | 動物たちについて、正しい知識を身につける。動物たちを正しく扱うことができる。これらを踏まえて、適切な飼育管理をすることができることを目標とする。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|---------------------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 草食齧歯類について理解できる(モルモット) | |
| 2 | | 講義 | 草食齧歯類について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 3 | | 講義 | 草食齧歯類について理解できる(チンチラ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 4 | | 講義 | 重歯目について理解できる(ウサギ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 5 | | 講義 | 重歯目について理解できる(ウサギ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 6 | | 講義 | 食肉目について理解できる(フェレット) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 7 | | 講義 | 食肉目について理解できる(フェレット) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 8 | | 講義 | 食虫目について理解できる(ハリネズミ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 9 | | 講義 | 食虫目について理解できる(ハリネズミ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 10 | | 講義 | 雑食性齧歯類について理解できる(ハムスター) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 11 | | 講義 | 雑食性齧歯類について理解できる(ハムスター) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 12 | | 講義 | 雑食性有袋類について理解できる(フクロモモンガ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 13 | | 講義 | 鳥類について理解できる(オウム・インコ・フィンチ) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 14 | | 筆記試験 | 授業で学んだ内容の総復習ができる | 前回までの授業のノートを必ず読んでくる |
| 15 | | 講義 | 鳥類について理解できる(鶏・鶉・アヒル) | 前回の授業のノートを必ず読んでくる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 教科書は無し。参考書は必要に応じて随時。教材としては、飼育室の動物たちに協力をしてもらいます。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | エキゾチックアニマルⅠ2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺幸 介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究機構副理事長、動物関連番組の監修等 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | エキゾチックアニマルは、動物業界度の分野においても扱う機会が増加している。本授業では、基本的な種類について、分類や生態等についてや、保定や馴致、手入れなどの取り扱い等について理解し、適切な飼養管理を行う基本を身につけることを目指す。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物についての正しい知識と、正しく扱うための技術を身につけて適正な取り扱い、飼養管理ができること。また、それを伝えることができること目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ハムスターについて理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 2 | | 講義 | スナネズミについて理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 3 | | 講義 | 飼鳥について理解する(インコ類) | 授業の復習(ノート整理) |
| 4 | | 講義 | 飼鳥について理解する(フィンチ類) | 授業の復習(ノート整理) |
| 5 | | 講義 | 飼鳥について理解する(猛禽類) | 授業の復習(ノート整理) |
| 6 | | 講義 | 飼鳥について理解する(その他) | 授業の復習(ノート整理) |
| 7 | | 講義 | 爬虫類について理解する(カメ) | 授業の復習(ノート整理) |
| 8 | | 講義 | 爬虫類について理解する(トカゲ) | 授業の復習(ノート整理) |
| 9 | | 講義 | 爬虫類について理解する(ヘビ) | 授業の復習(ノート整理) |
| 10 | | 講義 | 爬虫類について理解する(その他爬虫類) | 授業の復習(ノート整理) |
| 11 | | 講義 | 両生類について理解する(カエル) | 授業の復習(ノート整理) |
| 12 | | 講義 | 両生類について理解する(サンショウウオ) | 授業の復習(ノート整理) |
| 13 | | 講義 | 両生類について理解する(その他両生類) | 授業の復習(ノート整理) |
| 14 | | 定期試験 | 筆記試験 | 試験振り返りと復習 |
| 15 | | 講義 | 後期補足と内容の理解 | 後期内容のまとめと理解 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|----------|
| 科目名 | 応急救護 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 入谷 拓哉 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ライフセービング業界における第一人者。多数現場経験あり。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、正確な知識と技術を習得する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 100% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------------|----|--|--|----------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 生活や仕事をする上で必要なことを準備する。市民の義務の一つでもあることを感じる。 | 入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定 |
| 2 | | 講義 | 応急手当の定義について説明できる。傷病者の観察について実践する。 | 傷病者の観察方法について実施する。 |
| 3 | | 講義 | ケガについて説明できる。RICE処置、アイシング、止血について説明できる | 間接圧迫止血について実施する。 |
| 4 | | 講義・演習 | 伊豆水族館実習において、現場での状況を観察する。 | 伊豆水族館実習をもって充当する。 |
| 5 | | 講義 | 筋けいれん、熱傷について説明できる | 熱傷の処置を実施する。 |
| 6 | | 講義・演習 | 大島ダイビング実習において、現場での状況を観察する。 | 大島ダイビング実習をもって充当する。 |
| 7 | | 講義 | 凍傷、熱中症について説明できる。熱中症の対策と手当ての方法について調べる | 熱中症の対策について調べる。 |
| 8 | | 講義 | 海の知識(波、リップカレント)について調べる | 提出レポートをもって充当する。 |
| 9 | | 講義 | 低体温、過換気、心臓発作について説明できる | 心臓発作について調べる。 |
| 10 | | 講義 | 脳卒中、けいれんについて説明できる。(映像: NHKスポーツ大陸) | レポート提出をもって充当する。 |
| 11 | | 講義・演習 | 保護ガーゼ、包帯、三角巾について説明できる 八つ折り、本結び、たたみ方を修得する。 | 指定した三角巾での傷の保護を実践する |
| 12 | | 演習 | 三角巾での傷の保護を修得する。(目、頭、顔面、胸、肩、臀部、顔面、胸) | |
| 13 | | 演習 | 三角巾での傷の保護を修得する。(肩、臀部、手、足、前腕、腕つり) | |
| 14 | | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、応急手当の理解を深める。 | 試験範囲からの復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|----------|
| 科目名 | 応急救護 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 入谷 拓哉 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ライフセービング業界における第一人者。多数現場経験あり。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、正確な知識と技術を習得する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 100% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------------|----|--|--|----------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 生活や仕事をする上で必要なことを準備する。市民の義務の一つでもあることを感じる。 | 入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定 |
| 2 | | 講義 | 応急手当の定義について説明できる。傷病者の観察について実践する。 | 傷病者の観察方法について実施する。 |
| 3 | | 講義 | ケガについて説明できる。RICE処置、アイシング、止血について説明できる | 間接圧迫止血について実施する。 |
| 4 | | 講義・演習 | 伊豆水族館実習において、現場での状況を観察する。 | 伊豆水族館実習をもって充当する。 |
| 5 | | 講義 | 筋けいれん、熱傷について説明できる | 熱唱の処置を実施する。 |
| 6 | | 講義・演習 | 大島ダイビング実習において、現場での状況を観察する。 | 大島ダイビング実習をもって充当する。 |
| 7 | | 講義 | 凍傷、熱中症について説明できる。熱中症の対策と手当ての方法について調べる | 熱中症の対策について調べる。 |
| 8 | | 講義 | 海の知識(波、リップカレント)について調べる | 提出レポートをもって充当する。 |
| 9 | | 講義 | 低体温、過換気、心臓発作について説明できる | 心臓発作について調べる。 |
| 10 | | 講義 | 脳卒中、けいれんについて説明できる。(映像: NHKスポーツ大陸) | レポート提出をもって充当する。 |
| 11 | | 講義・演習 | 保護ガーゼ、包帯、三角巾について説明できる 八つ折り、本結び、たたみ方を修得する。 | 指定した三角巾での傷の保護を実践する |
| 12 | | 演習 | 三角巾での傷の保護を修得する。 (目、頭、顔面、胸、肩、臀部、顔面、胸) | |
| 13 | | 演習 | 三角巾での傷の保護を修得する。 (肩、臀部、手、足、前腕、腕つり) | |
| 14 | | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、応急手当の理解を深める。 | 試験範囲からの復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | キャットグルーミング演習 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江本 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ペットサロン・動物病院・商品、生体販売・ドッグトレーナー補助など様々な経験があります | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | トリミング業界で行われているサービスを勉強します 日々進化する業界の流れについていき、新たな知識や技術を習得するための力をつけます 外部の先生をお呼びし特別講義を行っていただきます | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 就職後活躍していくための知識、技術を習得する 2) 新しいもの・事を考え、生み出す力をつける 3) ウィッグのデザインを考え、ブラッシングを終了する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト40% 2) ウィッグのデザイン画提出30% 3) ウィッグのブラッシング30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|----|---------------------|--|-------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ペット業界におけるエステ・サービスを学習する | 配布した資料を熟読する |
| 2 | | 講義＋演習 | フォトジェニックの背景の作り方・撮影方法を学ぶ | 背景を使用し犬(ウィッグも可)と撮影をし提出 |
| 3 | | 講義実習 | パックの種類や方法を学習する 2限～の演習の中で実践する | パックの手順、種類の復習・予習 |
| 4 | | 演習 | グルーミング犬種にハーブパックを実践する | 同一パックの犬種違いによる仕上がりの違いを レポートにまとめ提出 |
| 5 | | 講義実習＋演習 | ネイルの方法を学ぶ・足モデルの作成を行う | 足モデルの作成 |
| 6 | | 演習 | 足モデルにネイルを実践する(展示) | ウィッグのブラッシング |
| 7 | | 講義実習 | シルクの泡パックの手順を理解する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 8 | | 講義実習 | アロマパスの手順を理解する 2限からの演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 9 | | 講義 | デザインカット案の記入方法を学習する | ウィッグのブラッシング |
| 10 | | 講義実習 | 犬にデザインカットを行っているところを見て 実際にカットできるデザインを考える | ウィッグのブラッシング |
| 11 | | 講義実習 | ポイント(耳・尾)のカラーリング方法を学ぶ | ウィッグのブラッシング |
| 12 | | 演習 | デザイン画記入を実践する | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 13 | | 特別講義 | 特別講師による授業を見学し、新たな知識を得 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験の実施・ウィッグ、デザイン画提出 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 15 | | 講義 | 試験返却、ウィッグのカットを行う | ウィッグのカット |
| 準備学習 時間外学習 | | 予習・復習 ウィッグやネイルの準備 等 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 筆記用具、演習着(演習・講義実習時)、トリミング道具、ウィッグ等 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | キャットグルーミング演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江本 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ペットサロン・動物病院・商品、生体販売・ドッグトレーナー補助など様々な経験があります | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 前期に引き続きエステの演習を行います ウィッグのカットを仕上げていきます 猫のグルーミング・コントロール方法を学びます 前期試験でアンケートをとり、希望の多い授業を行います | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 就職後活躍するための知識・技術を習得する 2) WATに向けウィッグのカットを仕上げる 3) 猫のコントロールを学び、スムーズにグルーミングする技術を習得する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト50% 2) ウィッグの仕上がり40% 3) 年間を通してのレポート提出率、授業参加態度10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|----|------------------|-------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | ウィッグボディのカットを行う | ウィッグのカット |
| 2 | | 演習 | ウィッグ前駆のカットを行う | ウィッグのカット |
| 3 | | 演習 | ウィッグ後駆のカットを行う | ウィッグのカット |
| 4 | | 演習 | 炭酸泉(タブレット)の手順を学習する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのカット |
| 5 | | 演習 | 炭酸泉(粉末)の手順を学習する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのカット |
| 6 | | 演習 | 猫のグルーミング方法を学ぶ | ウィッグのカット |
| 7 | | 演習 | 猫のグルーミングを実践し、流れを理解する | ウィッグのカット |
| 8 | | 演習 | 泥パックの手順を学習する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのカット |
| 9 | | 演習 | 猫のグルーミングを実践し コントロール方法を学ぶ | ウィッグのカット |
| 10 | | 演習 | 今までの演習で学んだことを理解し 猫のグルーミングを実践する | ウィッグのカット |
| 11 | | 演習 | ウィッグのカットの仕上げ、カラーを行う | ウィッグのカット・カラー |
| 12 | | 演習 | ウィッグのカラーを行い、調整を行う | ウィッグのカット・カラー |
| 13 | | 選択授業 | アンケートを行い希望の多い授業を行います | レポート記入・提出 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験、ウィッグの提出、レポート提出 | ウィッグの見直し |
| 15 | | 講義 | 試験の答え合わせ、WAT前のウィッグ調整 | 1年間の授業内容の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | ウィッグのカット レポート 復習 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 筆記用具、演習着(演習・講義実習時)、トリミング道具、ウィッグ等 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | グルーミング演習 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 佐藤 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼一3年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 2 | | |
| 教員の略歴 | 各講師ペットサロン、ペットショップ、動物病院勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | プロトリマーになるうえで必要な基礎グルーミングの技術を習得することができます。 また、2年次に向けたトリミング技術の向上を目指します。 技術の向上だけでなく、接客、犬のコントロール、コミュニケーション能力を学ぶことができるのがこの授業の特徴です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬のコントロールや犬種別のグルーミングの基礎技術を習得することができます。また、グルーミングの基礎技術を生かし、主に2年次で学ぶトリミング技術の基礎を習得することができます。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 14週目に実技試験 （前期:グルーミング犬種の足周りカットまでで1時間半、後期;トリミング犬種の足周りまでで1時間半） ク、コントロール、ツールの扱いの基礎が時間内に終わらせるようになること | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------|----|------|--|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ツール配布・説明 (ツールの基本的な扱い方、授業の目的について学ぶ) | 配布されたツールの名前や使い方などの復習 |
| 2 | | 演習 | ベーシックを中心にグルーミングをし、流れを覚え実践することができる。 | トリミング日誌の記入&提出 |
| 3 | | 演習 | 流れを復習しながらグルーミングを行うことができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 4 | | 演習 | ベーシックを中心にグルーミングをし、クリッピングや爪切りの技術を習得することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 5 | | 演習 | シザーを使い足周りのカットの技術を習得することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 6 | | 演習 | クリッピング及び爪切りをステップアップし、スピードアップを計ることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 7 | | 演習 | 足先バリカンの技術の習得をすることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 8 | | 演習 | 前回までの足バリ、クリッピング及び爪切りのステップアップを計ることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 9 | | 演習 | 前回までの足バリのステップアップを計り、時間は1本5分に設定する | トリミング日誌の記入&提出 |
| 10 | | 演習 | 前回までの足バリのステップアップを計り、足周りのカット、飾り毛のカットを習得する | トリミング日誌の記入&提出 |
| 11 | | 演習 | 前回までのベーシックを中心に足周り及び飾り毛のカットのスピードアップを計る | トリミング日誌の記入&提出 |
| 12 | | 演習 | ベーシックを中心に、足周り及び飾り毛のカットを確実に習得することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 13 | | 演習 | 試験前にトータル時間及び仕上がりを確認し、問題点を解決を目指す | トリミング日誌の記入&提出 |
| 14 | | 試験 | グルーミング犬種のベーシックを中心に1時間半で行う | トリミング日誌の記入&提出 |
| 15 | | 演習 | 半期の振り返り | トリミング日誌の記入&提出 |
| 準備学習 時間外学習 | | | トリミング日誌の記入&提出で充当 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 各シザー、スリッカーなどのツール | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | グルーミング演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 佐藤 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-3年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 2 | | |
| 教員の略歴 | 各講師ペットサロン、ペットショップ、動物病院勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | プロトリマーになるうえで必要な基礎グルーミングの技術を習得することができます。 また、2年次に向けたトリミング技術の向上を目指します。 技術の向上だけでなく、接客、犬のコントロール、コミュニケーション能力を学ぶことができるのがこの授業の特徴です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬のコントロールや犬種別のグルーミングの基礎技術を習得することができます。また、グルーミングの基礎技術を生かし、主に2年次で学ぶトリミング技術の基礎を習得することができます。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 14週目に実技試験 期:グルーミング犬種の足周りカットまでで1時間半、後期:トリミング犬種の足周りまでで1時間半) ク、コントロール、ツールの扱いの基礎が時間内に終わられるようになること | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|----|------|--|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ツール配布・説明 (ツールの基本的な扱い方、授業の目的について学ぶ) | 配布されたツールの名前や使い方などの復習 |
| 2 | | 演習 | ベーシックを中心にグルーミングをし、流れを 覚え実践することができる。 | トリミング日誌の記入&提出 |
| 3 | | 演習 | 流れを復習しながらグルーミングを行うことができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 4 | | 演習 | ベーシックを中心にグルーミングをし、クリッピングや爪切り の技術を習得することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 5 | | 演習 | シザーを使い足周りのカットの技術を習得することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 6 | | 演習 | クリッピング及び爪切りをステップアップし、スピードアップ を計ることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 7 | | 演習 | 足先バリカンの技術の習得をすることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 8 | | 演習 | 前回までの足バリ、クリッピング及び爪切りのステップアップ を計ることができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 9 | | 演習 | 前回までの足バリのステップアップを計り、時間は1本5分に設 定する | トリミング日誌の記入&提出 |
| 10 | | 演習 | 前回までの足バリのステップアップを計り、足周りのカット、 飾り毛のカットを習得する | トリミング日誌の記入&提出 |
| 11 | | 演習 | 前回までのベーシックを中心に足周り及び飾り毛のカットのス ピードアップを計る | トリミング日誌の記入&提出 |
| 12 | | 演習 | ベーシックを中心に、足周り及び飾り毛のカットを確実に習得 することができる | トリミング日誌の記入&提出 |
| 13 | | 演習 | 試験前にトータル時間及び仕上がりを確認し、問題点を解決 を目指す | トリミング日誌の記入&提出 |
| 14 | | 試験 | グルーミング犬種のベーシックを中心に1時間半で行う | トリミング日誌の記入&提出 |
| 15 | | 演習 | 半期の振り返り | トリミング日誌の記入&提出 |

| | |
|---------------------------------|------------------|
| 準備学習 時間外学習 | トリミング日誌の記入&提出で充当 |
| 【使用教科書・教材・参考書】 各シザー、スリッカーなどのツール | |

東京コミュニケーションアート専門学校

| | | | | | | | |
|---------|--|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | ドッグサービスマインド I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 今村真也 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 動物保護シェルター代表取締役 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上でつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験の提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------------|----|--|---|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | ドッグライフカウンセラー教本を事前に読む |
| 2 | | 講義 | この講義の持つ役割と飼主の心理と変化との関係の見方、飼主への対応方法の基礎を学習する | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 3 | | 講義 | 人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 4 | | 講義 | 人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 5 | | 講義 | それぞれの犬種の持つ特徴を理解し、飼い主が持つイメージとのギャップを理解する。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 6 | | 講義 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 7 | | 講義 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 8 | | 講義 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 9 | | 講義 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 10 | | 講義 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 11 | | 講義 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 12 | | 講義 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 13 | | 講義 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 14 | | 試験 | 60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | | 講義 | テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める | 試験範囲の復習を行う |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】ドッグライフカウンセラー教本『素晴らしき家族』 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | ドッグサービスマインド I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 今村真也 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 動物保護シェルター代表取締役 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上でつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験の提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------------|----|--|---|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ドッグスポーツ、ドッグイベント等のイベントの組み立てが出来るようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 2 | | 講義 | ドッグスポーツ、ドッグイベント等のイベントの組み立てが出来るようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 3 | | 講義 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 4 | | 講義 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 5 | | 講義 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 6 | | 講義 | 日常生活の中で多く見られる、飼い主の相談事例を使用しながら実践的な解決方法の検討とその伝え方を習得する。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 7 | | 講義 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 8 | | 講義 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 9 | | 講義 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 10 | | 講義 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 11 | | 講義 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 12 | | 講義 | 身体障害者補助犬法についての理解を深める | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 13 | | 講義 | 身体障害者補助犬法についての理解を深める | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 14 | | 試験 | 60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | | 講義 | テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める | 試験範囲の復習を行う |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】ドッグライフカウンセラー教本『素晴らしき家族』 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | ドッグトレーニング演習 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 安齋 裕己 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-3年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 2 | | |
| 教員の略歴 | 元嘱託警察犬訓練士、現在は 家庭犬訓練教室を開業 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------------|----|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 招呼(呼び戻し)を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 脚側意識の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 脚側行進の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | ハウスを教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 伏臥を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 脚側意識の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 脚側行進の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 声符・視符を正しく使うことが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 14 | | 講義・試験 | 試験 (筆記試験) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校飼育犬の飼育当番及び観察で充当 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 犬具一式 ・ 筆記用具 ・ トレーニング日誌 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|------|---|------|----|
| 科目名 | ドッグトレーニング演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 古銭 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-3年制 | 授業 形態 | 演習 | (単位) | 2 | | |
| 教員の略歴 | 動物病院にて、家庭犬トレーニングを行っている | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 異文化コミュニケーション:犬との違いを知り、お互いを理解する授業です。また、犬と飼い主の良き理解者になるための授業でもあります。知識のみならず、心技体を絶えず意識して授業に参加してください。そしていつも自分で考え工夫する努力を忘れないでください。 | | | | | | |
| 到達目標 | 自分を飼い馴らし、犬を飼い馴らす。飼い主を選ぶことのできない犬の本当の理解者になる。犬文化後進国・日本での犬文化の向上に貢献する。動物病院など現場のニーズを考えたトレーニング方法を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率80% 実技テスト20%(基本的な犬の扱いがリード・首輪を使い出来る) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|---------------------|----------------------------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 犬はどのような動物か理解することが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 2 | | 講義・演習 | 犬と人の違いを理解することが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 3 | | 講義・演習 | 犬の時間・一生を考えることができる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 4 | | 講義・演習 | 犬の心を育てるトレーニング方法を身につけることが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 5 | | 講義・演習 | 犬から何を学ぶことが出来るかを理解することが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 6 | | 講義・演習 | 犬とはどのような人を尊敬するかを理解することが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 7 | | 講義・演習 | 犬が人に注目するような進退の動き、使い方を理解することが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 8 | | 講義・演習 | 犬と人の距離のとりかたを理解できる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 9 | | 講義・演習 | 犬はどのような空間を好むのか理解できる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 10 | | 講義・演習 | 犬は人との共同作業が好きという概念を理解できる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 11 | | 講義・演習 | 犬らしい犬を育てるとい言葉の意味を理解し実践できる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 12 | | 講義・演習 | 犬に仕事を与えるということを理解し実践できる。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 13 | | 講義・演習 | 犬のきもちを理解し、トレーニングを行うことが出来る。 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 14 | | 講義・演習 | 試験 | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 15 | | 講義・演習 | 振り返り | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する |
| 準備学習 時間外学習 | | 学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|------|---|--------------|
| 科目名 | ドッグトレーニング概論 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 中川慎悟 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | ドッグスポーツスクール代表 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ドッグトレーナーになるために必要不可欠な基本的な知識・技術・動作等を習得する授業です。また、犬の行動原理や生態を理解し、適切なトレーニング方法を学び、それを第三者に伝える知識と技術を学べます。より多くの犬(個体)をトレーニングし、自らの知識や技術を他者に的確に伝えることができるプロとなれるよう、学習してください。授業は実習が中心ですが、資料を用いて犬及びトレーニングの基礎を学習します。※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。 | | | | | |
| 到達目標 | オビディエンスの基本的な動作(ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ)を理解する。犬種の特徴を理解し、個体によって最適なトレーニングを行うことができる。どの犬にも基本動作(ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ)を教えることができる。環境に合わせた飼育方法やトレーニングを提案できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 通常授業の取組態度20% 定期試験80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 取組態度は担当犬の課題達成度に応じて判断する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|--|-------|---|-------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 演習 | 「犬への接し方と注意点、犬にとって人間の言葉とは？」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 2 | 演習 | 「ドッグトレーナーとしての必要な要素、トレーニングの注意点」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 3 | 演習 | 「基本動作とコマンドの意味」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 4 | 演習 | 「犬の心理」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 5 | 演習 | 「犬に動作を教える方法」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 6 | 演習 | 「オビディエンスとしつけの違い」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 7 | 演習 | 「褒め方と叱り方」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 8 | 演習 | 「オヤツの使い方」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 9 | 演習 | 「犬の行動原理、信頼関係を築くということ」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 10 | 演習 | 「古典的条件付けとオペラント条件付け」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 11 | 演習 | 「陽性強化と陰性強化」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 12 | 演習 | 「フックの使い方とその理論」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 13 | 演習 | 「クリッカーの使い方」を理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 14 | 試験 | 筆記試験、習熟度の確認 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 15 | 講義・演習 | テスト結果からの振り返り 前期授業の反省と後期への課題策定 | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 準備学習 時間外学習 | | 飼育当番を通じて犬に対しての生態や習性について、より深い学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルテキスト、トレーニング日誌 ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----------|------|---|------|----------|
| 科目名 | ドッグトレーニング演習 I 2 | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 中川慎 悟 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ドッグスポーツスクール代表 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ドッグトレーナーになるために必要不可欠な基本的な知識・技術・動作等を習得する授業です。 また、犬の行動原理や生態を理解し、適切なトレーニング方法を学び、それを第三者に伝える知識と技術を学 べます。 より多くの犬(個体)をトレーニングし、自らの知識や技術を他者に的確に伝えることができるプロになれるよう、 学習してください。 授業は実習が中心ですが、資料を用いて犬及びトレーニングの基礎を学習します。 | | | | | | |
| 到達目標 | オビディエンスの基本的な動作(ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ)を理解し、より高いレベルで実践する。 犬種の特性を理解し、個体によって最適なトレーニングを行うことができる。 どの犬にも基本動作(ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ)を教えることができる。 環境に合わせた飼育方法やトレーニングを提案できる。 実際に飼い主とコミュニケーションと取り、より現場に近い状況でアドバイスができる。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 通常授業の取組態度20% 定期試験80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 取組態度は担当犬の課題達成度に応じて判断する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|-----------------------------------|-------|---|-------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 演習 | 「与えられたものへの反応とその効果」を理解し実 践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 2 | 演習 | 「強制訓練」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 3 | 演習 | 「動作を定着させる為の時間と距離」を理解し実 践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 4 | 演習 | 「人の反応速度」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 5 | 演習 | 「声符・視符(体符)」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 6 | 演習 | 「オブスタクルコマンドとディレクションコマンド」を 理解し実践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 7 | 演習 | 「カーミングシグナル」を理解し実践できる。担当 犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 8 | 演習 | 「テンションの高い犬」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 9 | 演習 | 「問題行動とは？」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 10 | 演習 | 「アルファインドローム(権勢症候群)」を理解し実 践できる。担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 11 | 演習 | 「仔犬の成長と注意点」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 12 | 演習 | オーナーレッスン準備 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 13 | 演習 | オーナーレッスン準備 担当犬トレーニング | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 14 | 試験 | 筆記試験 オーナーレッスン | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 15 | 講義・演習 | テスト結果からの振り返り オーナーレッスン | トレーニング日誌の記入/学校犬飼育 |
| 準備学習 時間外学習 | | 飼育当番を通じて犬に対しての生態や習性について、より深い学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルテキスト、トレーニング日誌 | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | ドルフィンパフォーマンス I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三好 豪 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二 2 年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ①《歴史》とは、その世界における先人達により積み重ねた探求の産物である…長きにわたる研究の先に今に至り、現状の業界運営における基本として成立ち、また今日も日々積み重なっている。その膨大な挑戦の記録から、海の業界、ここでは《イルカ》の世界に導く為に重要である知識と経験を実践と座学、時に実習を踏まえての習得を主として学習していく ②《イルカ・海関連》の様々な講義と関連し相互的な理解と活用が必要である。③《イルカ》を中心とした歴史を学びながら、生態としての知識、訓練や処置方法、業界に求められるスタッフ像等、業界に適応する為に必要な様々な能力や知識を多面的に取り入れ、世界を担う人材となって貰いたい | | | | | | |
| 到達目標 | ①《イルカ》業界の成立ち…イルカとその業界についての初歩的知識を認識する ②《水族館》施設の現状…本校との関りや自身のこれからを投影しつつ未来を予測する ③《実習》への対応…実践的な実習を通して、自己能力を見定め、自己評価や修整力を身に着ける ④《鯨類》の考察…イルカを中心として、更に広い分野として鯨類の種や科を理解する ⑤《イルカ》に関する様々な知識…飼育のみならず、捕獲方法や病気、その処置の方法等、普段飼育していく上で必要不可欠な日常の情報と仕事面での有り様を学び取る ⑥《イルカの五感》についての研究史…訓練や飼育に関して、理解度を高める為、個体としての五感の能力を学習する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 (60%) 出席数 (20%) レポート (20%) 達成レベル…①《イルカ》の初歩的知識の習得 ②《水族館》の現状の理解 ③《実習》体験への準備とスキルアップ ④《鯨類》の種や科への理解 ⑤《イルカ》の捕獲法や病気等を知識として習得 ⑥《イルカ》の五感についての様々な事象と能力を認識する 試験は筆記で施行 筆記試験評価: (A評価 100～80点 B評価 79～70点 C評価 69～60点 F評価 59～0点) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|---------------------------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月11日 | 講義 | 前期の講義にあたっての主旨説明と《イルカ》に関する様々な分野への理解の始まり | 《イルカ》を図解し、その身体的特徴を明確化しつつ説明し、業界分野を見て取る |
| 2 | 4月18日 | 講義 | 動物業界における必要スキルとしての《適性》と現場における《礼儀礼節》を指導する | 海業界に求められる《人材》の構築…《サービス業》でもある仕事としても理解する |
| 3 | 4月24日 | 講義 | 《水族館》の成立ちと現在、実習、就職先となる施設への理解度を高める | 《水族館》の現状と自身との関連性や目標の設定を行う…実習としての施設理解 |
| 4 | 5月9日 | 講義 | 《水族館実習》に関する事前学習を主とし、クラス、個人としての課題を明確化する | 五月に行われる初の《水族館実習》の準備を通して、イベントや業務に対応する《事前・実践・事後》の運用や対処法、必要な能力を自己体験を元に学んでいく。自己分析と評価 |
| 5 | 5月16日 | 講義・演習 | 《水族館実習》の実践として現場においての振舞い方、質疑応答対応、自己評価等を経験する | |
| 6 | 5月30日 | 講義 | 《水族館実習》の事後学習による自己分析とイベント運営に対する論議による向学を行う | |
| 7 | 6月13日 | 講義 | 改めて《イルカ》に関する生態的な情報と知識を学びつつ、夏期休暇について考察する | 《実習》を通して得た経験を元に、初の長期休暇への《実践的な学び》を考察する |
| 8 | 6月20日 | 講義 | 《イルカ》の初期飼育についての考察、個体捕獲方法や捕鯨の歴史について学ぶ | 古式～近現代に至る《捕鯨の歴史》に関する造詣を深める。捕獲や輸送、初期飼育も関連 |
| 9 | 6月27日 | 講義 | 《鯨類》について、現存する鯨類の種や科を学び、それらの個体に対する造詣を深める | 現在確認されている《鯨類》の種や科について図式化し判別出来る様にする |
| 10 | 7月4日 | 講義 | 《イルカ》に関する様々な病気や疾患についての対処や処置方法等の歴史を学ぶ | 《イルカ》の病気や疾患について、個体の健康管理方法を学ぶ 後に解剖解体にも繋がる |
| 11 | 7月11日 | 講義 | 《イルカ》の五感研究史①…《視覚・触覚》について、その能力を理解する | 《イルカ》の五感について、その研究データから能力や運用方法、それらの訓練への転用や外洋での環境適応を元に、鯨類の骨格や内部構成等への理解度も高める |
| 12 | 7月18日 | 講義 | 《イルカ》の五感研究史②…《聴覚》について、人類との伝達手段と内部構成を学ぶ | |
| 13 | 9月5日 | 講義 | 《イルカ》の五感研究史③…《反響定位》について、最も重要な器官であり、その能力を考察 | |
| 14 | 9月12日 | 試験・レポート | 60分筆記試験＋30分の感想文作成 | 前期を振り返りつつ、自己の理解度を確かめる また、レポートにより自己分析を明確化する |
| 15 | 9月19日 | 講義 | 試験の振り返りと共に、後期に対する取り組み方をそれぞれに鑑みる | 前期を総括しつつ、自身における進路の方向性を強化もしくは修正し、後期に備える |
| 準備学習 時間外学習 | | 事前学習にて講義の概要受け入れを準備し、事後学習にて自己の習得率を向上する | | |
| 【教材・参考書】 イルカ概論(粕谷俊雄著) 海獣水族館～飼育と展示の生物学(村山司・祖一誠・内田詮三著) ケトス知恵～イルカとクジラのサイエンス(村山司著) イルカ・クジラ学～イルカとクジラの謎に挑む(中原史生著) 世界のクジラ・イルカ百科辞典(アナリサ ベルタ著) 捕鯨問題の歴史社会学(渡邊洋之著) イルカのくれた夢 ママのくれた夢 (三好晴之著) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | ドルフィンパフォーマンス I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三好 豪 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ①《イルカ》と言う生物を中心として形成され、そこから発信される情報が必要とされるのは、海関係の業界のみではない。水族館という学びの場を飛び越えて、現在において多種多様なビジネス経済とも総合的な関連性を産み出している。イルカと海から始まる様々な職種の生業、現実の厳しさも踏まえて業界への適応力を学んで貰いたい。②《水族館系、鯨類系、イルカ系》…個体の訓練方法から個人能力のスキルアップ系まで、多様な科目と関連有り、相互関係性を重視する③イルカの講義で有りながら、《イルカ》のみに囚われない発想と人間性、それに伴う行動力と知性を身に着けイルカを中心とした海業界の新たな担い手として邁進して頂きたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①《イルカ》を中心としたビジネス展開の形式を学ぶ…自分の目指す業種への再認識 ②《イルカ》をビジネスに運用するにあたっての基礎知識と確認状況を提示する…生態としてのイルカを改めて学ぶ ③《イルカ》を国内で扱う大きな施設、水族館業界の現状を理解する…求められる人材やその採用基準、就活方法など ④《イルカ》を施設の求める完成体にする為の訓練方法を学習する…施設側の求める個体は、素体ではない為、訓練する過程と完成種目等を細部にわたり、公開する ⑤《イルカ》の輸送や搬入、病気や血液検査方法等を考察する…業界でも必ず行われ、必要不可欠なスキルも伴う ⑥水族館以外の《イルカ》に関わる業界を模索する…ビジネス展開としては、《イルカ》を中心とした物であり、多くの可能性を提示する | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 定期試験 (60%) 出席数 (20%) レポート (20%) 達成レベル…①個々人の目標施設の認識、業種の理解度の向上 ②イルカの生態レベルでの理解、扱う生体を伝達出来る ③水族館の現状を考察し、自分の素養とすり合わせる④イルカ訓練の方式をマスターする、その訓練基準や名称の確認 ⑤イルカ生体に関する様々健康状態や病気などの名称を認識する ⑥《イルカ》を中心とした世界観の構築、その中で自分目指すビジネスの提示する 試験は筆記で施行 筆記試験評価:(A評価 100～80点 B評価 79～70点 C評価 69～60点 F評価 59～0点)再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|---------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月17日 | 講義 | 最終学年についての再認識…自分自身の現状で目標と自己能力を照らし合わせる | 目指す業界に求められる《人材》を改めて理解し、それに伴い自己分析する |
| 2 | 4月24日 | 講義 | 業界の現状、指針の考察…《イルカ》を活用したビジネス展開の基本事項を理解する | 《イルカ》をビジネスとする場合に、必要とされる内容事項を列挙する |
| 3 | 5月8日 | 講義 | ドルフィンビジネス(個体確保)…《イルカ》生体の個体価格や訓練価値を説明する | 《イルカ》個体単価の理解により、その貴重性や飼育の責務の重さを感じ取る |
| 4 | 5月22日 | 講義 | ドルフィンビジネス(身体検査)…企業ニーズに合わせた個体の身体や雌雄の確認 | 《イルカ》を飼育するというニーズは、その企業施設からのオーダーを総括的に理解 |
| 5 | 5月29日 | 講義 | 水族館ビジネスマナー…《サービス業》の一環であり、個人の対応力の必要性を説く | 《ゲスト》接客にも通じる案件であり、礼儀礼節など個人としての対応力を鑑みる |
| 6 | 6月5日 | 講義 | 水族館談義…就職先として主となる《水族館》へのアプローチ等を談義する | 《就活》に関する気構えや求められる人材について、昨年の実績を踏まえて論議する |
| 7 | 6月12日 | 講義 | ドルフィンビジネス(個体訓練①)…施設側から求められるハズバンドリーの飼育法 | 《イルカ》訓練はオーダーのある企業施設から様々な個体アクションの提示がある…ハズバンドリーやショウにおけるパフォーマンス、触れ合いプログラム、医療訓練等…それらのニーズに応える為の訓練技法を提示する |
| 8 | 6月19日 | 講義 | ドルフィンビジネス(個体訓練②)…施設側から求められるショウアクションの飼育法 | |
| 9 | 6月26日 | 講義 | ドルフィンビジネス(個体訓練③)…施設側から求められる医療訓練の飼育法 | |
| 10 | 7月3日 | 講義 | ドルフィンビジネス(個体訓練④)…施設側から求められる触れ合いプログラムの飼育法 | |
| 11 | 7月10日 | 講義 | ドルフィンビジネス(生体輸送や検査項目)…訓練とも重要である生体チェック事項の理解 | 《イルカ》の健康状態のキープに対して必要な情報の理解度を高める |
| 12 | 7月17日 | 講義 | 繁忙期《夏》の重要性…通年を通して、最も重要である夏期休暇の運用を考察する | 業界にとって、また受講者個人にとっても重要である《夏季休暇》の有り様を考える |
| 13 | 9月4日 | 講義 | 施設実習報告…長期夏期休暇を通しての経験談を質疑を通して共通理解とする | それぞれの就活に対しての取り組み方を共有する事で、全体の内定率向上を目指す |
| 14 | 9月11日 | 試験・レポート | 60分筆記試験+30分の感想文作成 | 前期を振り返りつつ、自己の理解度を確かめる また、レポートにより自己分析を明確化する |
| 15 | 9月18日 | 講義 | 試験の振り返りと共に、後期に対する取り組み方をそれぞれに鑑みる | 前期を総括しつつ、自身における進路の方向性を強化もしくは修正し、後期に備える |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事前学習にて講義の概要受け入れを準備し、事後学習にて自己の習得率を向上する | |
| 【教材・参考書】 イルカ概論(粕谷俊雄著) 海獣水族館～飼育と展示の生物学(村山司・祖一誠・内田詮三著) ケトス知恵～イルカとクジラのサイエンス(村山司著) イルカ・クジラ学～イルカとクジラの謎に挑む(中原史生著) 世界のクジラ・イルカ百科辞典(アナリサ ベルタ著) 捕鯨問題の歴史社会学(渡邊洋之著) イルカのくれた夢 ママのくれた夢 (三好晴之著) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | ナチュラリストガイド I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 加藤直邦 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ケニア政府公認プロサファリガイド | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 環境、観察、観光の3つのキーワードを用いて、アフリカのサバンナや南米アマゾンなど、実際に観察した経験談と画像をもとに、熱帯区の動物の野生での行動と、環境のつながりを紹介。 哺乳類だけでなく興味深い鳥、両生・爬虫類、昆虫、植物も網羅する。 各地の保護の現状を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 自然観察の楽しさを知ってもらい、海外に目を向ける。 生物多様性を学び、それらの知識を活かしたネイチャーガイド業務の育成。 実際に自然保護区へ訪問するための具体的な方法やコツを習得する。 海外で働くことも前提として、必要とされる英語力を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験50% 2) プレゼンテーション30% 3) 出席率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|-------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月16日 | 講義 | 授業内容の説明とサバンナの概要を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 2 | 4月23日 | 講義 | マサイマラ国立保護区の概要と、草原地帯に住む草食動物の生態を理解する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 3 | 5月7日 | 講義 | 草原地帯に住むチーターの生態と走鳥類などの生態を知る | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 4 | 5月14日 | 講義 | 低木地帯に住むライオン、イボイノシシ、クロサイなどの生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 5 | 5月21日 | 講義 | 低木地帯に住むヒヒ、マングース、アリ塚などの生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 6 | 5月28日 | 講義 | アカシア疎開林に住むキリン、ジャッカル、インパラなどの生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 7 | 6月4日 | 講義 | 山岳地帯に住むヒョウ、ハイラックス、爬虫類などの生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 8 | 6月11日 | 演習 | 葛西臨海公園実習 | フィールドブックやインターネットを利用して、生息する生物種を調べる |
| 9 | 6月18日 | 講義 | 水辺に住むカバ、ワニ、水鳥の生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 10 | 6月25日 | 演習 | 葛西臨海公園実習 | フィールドブックやインターネットを利用して、生息する生物種を調べる |
| 11 | 7月2日 | 講義 | 湿原に住むゾウやスイギュウ、サーバルなどの生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 12 | 7月9日 | 講義 | 水辺に住むカバ、ワニ、水鳥の生態を把握する | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 13 | 7月16日 | 講義 | アフリカにおける保護の現状と、観光の両立について考える | 各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する |
| 14 | 9月3日 | 講義・演習 | 中間テスト、バーチャルサファリガイドをおこない、ガイド力を身につける | 評価表を用いて、参加者は発表者の評価採点をおこなう。 |
| 15 | 9月10日 | 講義 | 中間テストの振り返り | 参加者からの評価を聞く |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | ナチュラリストガイド I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 加藤直邦 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ケニア政府公認プロサファリガイド。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 生徒一人一人が興味あることや、野生動物保護、環境保全に関するトピックを自分で調べ、発表をする。 アウトドアビジネスでも実践可能なアイスブレイクやアクティビティの練習。 | | | | | | |
| 到達目標 | コミュニケーション能力を高めることで、社会で求められる人材をめざす。 プレゼン技術を体得することで、自分に自信をつける。 自分の主張を出すだけでなく、人の話を聞く大切さを身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 評価表などを用いて、聞き手側全員でプレゼンターの評価をおこなう。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 自己紹介、 プレゼンテーションを学ぶの意義を知る | この授業を学ぶことで、社会でどのように プレゼン力が必要なのか考えてみる |
| 2 | | 講義・演習 | グループアクティビティを通して、 自分自身を知る | 教室で紹介する本を探し、発表の練習をする |
| 3 | | 講義・演習 | 読書発表を通して、相手のことを知り 共感力を学ぶ | 紹介してもらった本を自分で読んでみる |
| 4 | | 講義・演習 | マイフィールドマップを作成し、地理力を高め 身近な自然について再確認する | もう一度、家の近所の環境を観察してみる |
| 5 | | 講義・演習 | 写真撮影テクニックを駆使して、 相手に共感してもらえる記事を考える | 相手の作品を客観的に評価する |
| 6 | | 講義・演習 | 新聞記事を作成し、 相手から共感してもらえる方法を学ぶ | 1年次の海外研修を振り返り、 新聞の記事になるネタを探す |
| 7 | | 講義・演習 | 新聞記事を作成し、 相手から共感してもらえる方法を学ぶ | 1年次の海外研修を振り返り、 新聞の記事になるネタを探す |
| 8 | | 演習 | 葛西臨海公園実習 | フィールドブックやインターネットを利用して、 生息する生物種を調べる |
| 9 | | 講義・演習 | 先週の実習を振り返りながら ラムサール条約について学ぶ | インターネットや書籍で 他の条約地を調べてみる |
| 10 | | 演習 | 葛西臨海公園実習 | フィールドブックやインターネットを利用して、 生息する生物種を調べる |
| 11 | | 講義・演習 | 先週の実習を振り返りながら 天然記念物と外来種について学ぶ | 自分が興味のある外来種を調べてくる |
| 12 | | 講義・演習 | 日本の自然保護区について学ぶ | インターネットや書籍で 日本の保護区を調べてみる |
| 13 | | 講義・演習 | 日本の自然保護区について学ぶ | インターネットや書籍で 日本の保護区を調べてみる |
| 14 | | 講義 | 中間テスト、バーチャルサファリガイドをおこな い、ガイド力を身につける | 評価表を用いて、参加者は発表者の 評価採点をおこなう。 |
| 15 | | 講義 | 中間テストの振り返り | 次回からの熱帯雨林について 事前調査してくる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|----------|-------------|---|-----------|
| 科目名 | ビオトープ I 1 | 必修 選択 | 選択必 須 | 年次 | 1 | 担当教員 佐藤 充 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | 北里大学水産学部卒業 (株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 現在の動物園・水族館は、自然環境保全の考えからビオトープの作成や野生動物生息地の保護保全活動にも力を入れています。そのことから、ビオトープが野生動物にとってどのような役割を果たしているのか理解することは重要です。 ※学校の行事等により見学の日程や授業の日程の変更がある場合があります。 | | | | | |
| 到達目標 | ビオトープの役割が理解できるようになる。 簡単なビオトープを作ることが出来る。 ビオトープの仕組みを説明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|-------------------------------|-------|---|--|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解する。ビオトープの意味と役割について理解する。 | 今後行っていく授業の説明と個人目標の策定。画像や映像を使用し実際に施行されているビオトープを理解していく |
| 2 | 講義 | 動物園・水族館における自然の保護・保全活動が正しく理解できる | 画像や映像を使用し、具体的な保護・保全活動を説明していく |
| 3 | 講義・演習 | ビオトープのデザインをすることが出来る。 | 各自で出来るビオトープをデザインしていく。 |
| 4 | 講義・演習 | 簡単なビオトープの作成ができる | 実際にビオトープを作成・実践する。 |
| 5 | 講義・演習 | 簡単なビオトープの作成ができる | |
| 6 | 講義・演習 | ビオトープの役割をより深く理解できる | 葛西臨海公園見学 |
| 7 | 講義・演習 | ビオトープの役割をより深く理解できる | |
| 8 | 講義・演習 | ビオトープの役割を説明できる | |
| 9 | 演習? | 天城・伊豆の海のビオトープを説明できる | 実際の山・海の様子を理解する |
| 10 | 講義 | 自然界における物質の循環について理解し、説明できる。 | 生物の「死」とはどのような役割があるのか説明していく。 |
| 11 | 講義 | 自然界における生態系の仕組みを理解できる | 生態系がなぜ大切と言われているのか?説明していく。 |
| 12 | 講義・演習 | 作成したビオトープを確認し、どれだけの効果があったのか確認し理解する。 | 作成したビオトープの成長に伴い、生息する生物が増えてくるので、その観察を行う。 |
| 13 | 講義 | 前期まとめ 前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。 | |
| 14 | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、ビオトープの基礎を再確認する | 試験範囲からの復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|----------|-------------|---|-----------|
| 科目名 | ビオトープ I 2 | 必修 選択 | 選択必 須 | 年次 | 1 | 担当教員 佐藤 充 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | 北里大学水産学部卒業 (株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 現在の動物園・水族館は、自然環境保全の考えからビオトープの作成や野生動物生息地の保護保全活動にも力を入れています。そのことから、ビオトープが野生動物にとってどのような役割を果たしているのか理解することは重要です。 ※学校の行事等により見学の日程や授業の日程の変更がある場合があります。 | | | | | |
| 到達目標 | ビオトープの役割が理解できるようになる。 簡単なビオトープを作ることが出来る。 ビオトープの仕組みを説明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|-------------------------------|-------|--|--------------------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 外来種問題を理解することができる | 外来種のどこが問題かを正しく理解していく |
| 2 | 演習 | 左近川にて外来生物調査 | 身近に見られる外来種を自分たちで見つけ出す |
| 3 | 演習 | 左近川にて外来生物調査 | |
| 4 | 演習 | 帰化植物見本園見学 | 実際の帰化植物の実物を見て理解する |
| 5 | 演習 | | |
| 6 | 講義・演習 | 秋の葛西臨海公園(鳥類園)見学 | 春と秋で生物の変化(植物)を自ら気付く |
| 7 | 講義・演習 | 秋の葛西臨海公園(鳥類園)見学 | |
| 8 | 講義・演習 | 見学結果発表 | 春と秋で何が違い、それがどのような効果をもたらすのかに気付く |
| 9 | 講義 | サンゴというビオトープの役割 | サンゴが生態系にどのような役割をもたらすのかを理解する |
| 10 | 講義 | ビオトープ論 | ビオトープの世界の基礎用語の意味を理解する |
| 11 | 講義 | ビオトープにおける生態学 | 基礎的な生態学を理解する |
| 12 | | 休講?(海外研修) | |
| 13 | 講義 | 前期まとめ 前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。 | |
| 14 | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、ビオトープの基礎を再確認する | 試験範囲からの復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | ビューティー&キャット演習Ⅰ | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江本 |
| 学科・コース | エココミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ペットサロン・動物病院・商品、生体販売・ドッグトレーナー補助など様々な経験があります | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | トリミング業界で行われているサービスを勉強します 日々進化する業界の流れについていき、新たな知識や技術を習得するための力をつけます 外部の先生をお呼びし特別講義を行っていただきます | | | | | | |
| 到達目標 | 1)就職後活躍していくための知識、技術を習得する 2)新しいもの・事を考え、生み出す力をつける 3)ウィッグのデザインを考え、ブラッシングを終了する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)定期テスト40% 2)ウィッグのデザイン画提出30% 3)ウィッグのブラッシング30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|----|---------------------|--|-------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ペット業界におけるエステ・サービスを学習する | 配布した資料を熟読する |
| 2 | | 講義＋演習 | フォトジェニックの背景の作り方・撮影方法を学ぶ | 背景を使用し犬(ウィッグも可)と撮影をし提出 |
| 3 | | 講義実習 | パックの種類や方法を学習する 2限～の演習の中で実践する | パックの手順、種類の復習・予習 |
| 4 | | 演習 | グルーミング犬種にハーブパックを実践する | 同一パックの犬種違いによる仕上がりの違いを レポートにまとめ提出 |
| 5 | | 講義実習＋演習 | ネイルの方法を学ぶ・足モデルの作成を行う | 足モデルの作成 |
| 6 | | 演習 | 足モデルにネイルを実践する(展示) | ウィッグのブラッシング |
| 7 | | 講義実習 | シルクの泡パックの手順を理解する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 8 | | 講義実習 | アロマパスの手順を理解する 2限からの演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 9 | | 講義 | デザインカット案の記入方法を学習する | ウィッグのブラッシング |
| 10 | | 講義実習 | 犬にデザインカットを行っているところを見て 実際にカットできるデザインを考える | ウィッグのブラッシング |
| 11 | | 講義実習 | ポイント(耳・尾)のカラーリング方法を学ぶ | ウィッグのブラッシング |
| 12 | | 演習 | デザイン画記入を実践する | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 13 | | 特別講義 | 特別講師による授業を見学し、新たな知識を得 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験の実施・ウィッグ、デザイン画提出 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 15 | | 講義 | 試験返却、ウィッグのカットを行う | ウィッグのカット |
| 準備学習 時間外学習 | | 予習・復習 ウィッグやネイルの準備 等 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 筆記用具、演習着(演習・講義実習時)、トリミング道具、ウィッグ等 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|----|
| 科目名 | ビューティー&キャット演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江本 |
| 学科・コース | エココミュニケーション科 昼ニ2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | ペットサロン・動物病院・商品、生体販売・ドッグトレーナー補助など様々な経験があります | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | トリミング業界で行われているサービスを勉強します 日々進化する業界の流れについていき、新たな知識や技術を習得するための力をつけます 外部の先生をお呼びし特別講義を行っていただきます | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 就職後活躍していくための知識、技術を習得する 2) 新しいもの・事を考え、生み出す力をつける 3) ウィッグのデザインを考え、ブラッシングを終了する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト40% 2) ウィッグのデザイン画提出30% 3) ウィッグのブラッシング30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|----|---------------------|--|-------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | ペット業界におけるエステ・サービスを学習する | 配布した資料を熟読する |
| 2 | | 講義+演習 | フォトジェニックの背景の作り方・撮影方法を学ぶ | 背景を使用し犬(ウィッグも可)と撮影をし提出 |
| 3 | | 講義実習 | パックの種類や方法を学習する 2限～の演習の中で実践する | パックの手順、種類の復習・予習 |
| 4 | | 演習 | グルーミング犬種にハーブパックを実践する | 同一パックの犬種違いによる仕上がりの違いを レポートにまとめ提出 |
| 5 | | 講義実習+演習 | ネイルの方法を学ぶ・足モデルの作成を行う | 足モデルの作成 |
| 6 | | 演習 | 足モデルにネイルを実践する(展示) | ウィッグのブラッシング |
| 7 | | 講義実習 | シルクの泡パックの手順を理解する 2限～の演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 8 | | 講義実習 | アロマパスの手順を理解する 2限からの演習の中で実践する | ウィッグのブラッシング |
| 9 | | 講義 | デザインカット案の記入方法を学習する | ウィッグのブラッシング |
| 10 | | 講義実習 | 犬にデザインカットを行っているところを見て 実際にカットできるデザインを考える | ウィッグのブラッシング |
| 11 | | 講義実習 | ポイント(耳・尾)のカラーリング方法を学ぶ | ウィッグのブラッシング |
| 12 | | 演習 | デザイン画記入を実践する | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 13 | | 特別講義 | 特別講師による授業を見学し、新たな知識を得 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験の実施・ウィッグ、デザイン画提出 | ウィッグのブラッシング デザイン画記入 |
| 15 | | 講義 | 試験返却、ウィッグのカットを行う | ウィッグのカット |
| 準備学習 時間外学習 | | 予習・復習 ウィッグやネイルの準備 等 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 筆記用具、演習着(演習・講義実習時)、トリミング道具、ウィッグ等 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | プール実習 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 原島大樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 東京スポーツレクリエーション専門学校卒、(株)日本潜水機、日本コムシス(株)、(株)アドバンス取締役、(株)トラックス代表取締役 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技です。 | | | | | | |
| 到達目標 | クロールと背泳の技術が出来るようになる。 技術と体力を養いクロールで200m泳ぐことが出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(実技) 200mクロールのタイムの測定。 背泳の泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|--|---------------------------|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・実技 | 学校外施設の利用方法の確認。技術レベルによるコース分けを行う。 | | 入学前オリエンテーションにおける3つの習慣の理解と個人目標の策定。持参品の確認。 |
| 2 | | 実技 | 前期の授業内容を説明し当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することが出来る。 | | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指すし、授業外でも練習する。 |
| 3 | | 実技 | 水慣れと呼吸方法を理解する。 | | |
| 4 | | 実技 | ストリームラインの重要性を理解する。 | | |
| 5 | | 実技 | クロールキックが出来るようになる。 | | |
| 6 | | 実技 | クロールのプルが出来るようになる。 | | |
| 7 | | 実技 | クロールのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | | |
| 8 | | 実技 | クロールで泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。 | | |
| 9 | | 実技 | 背泳でのストリームラインを理解する。 | | |
| 10 | | 実技 | クロールのスタート出来るようになる。 | | |
| 11 | | 実技 | 背泳のキックが出来るようになる。 | | |
| 12 | | 実技 | 背泳のプルが出来るようになる。 | | |
| 13 | | 実技 | 背泳のキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | | |
| 14 | | 実技 | 背泳で泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。 | 夏季休暇中の個々の練習方法を確認する。 | |
| 15 | | 試験 | 200mクロールタイム測定、背泳泳力評価 | 完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 技術レベルによって授業外の練習を行う必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | プール演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 原島大 樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 東京スポーツレクリエーション専門学校卒、(株)日本潜水機、日本コムシス(株)、(株)アドバンス取締役、(株)トラックス代表取締役 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 技術と体力を養いクロールで400m泳ぐことが出来るようになる。 平泳ぎとサバイバルスイムの技術が出来るようになる。 サバイバルスイム(巻き足・潜水・特殊泳法)の技術が出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(実技) 400mクロールのタイムの測定。 平泳ぎの泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|---|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・実技 | 後期の授業内容を説明し当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することが出来る。 | 入学前オリエンテーションにおける3つの習慣の理解と個人目標の策定。持参品の確認。 | |
| 2 | | 実技 | 技術レベルによるコース分けを行う。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 | |
| 3 | | 実技 | 平泳ぎのキックを理解する。 | | |
| 4 | | 実技 | 平泳ぎのキックが出来るようになる。 | | |
| 5 | | 実技 | 平泳ぎのプルを確認する。 | | |
| 6 | | 実技 | 平泳ぎのプルが出来るようになる。 | | |
| 7 | | 実技 | 平泳ぎのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | | |
| 8 | | 実技 | 平泳ぎのスタートを覚える。スタミナをつけ、更なる体力と泳力の向上を図る。 | | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 9 | | 実技 | サバイバルスイムの紹介(巻き足・潜水・特殊泳法) | | |
| 10 | | 実技 | ヘッドアップクロールとオーストラリアンクロール サイドキックが出来るようになる。 | | |
| 11 | | 実技 | 25m潜水が出来るようになる。 | | |
| 12 | | 実技 | 巻き足が出来るようになる | | |
| 13 | | 実技 | オープンウォーターを意識した呼吸法が出来るようになる。 | | |
| 14 | | 実技 | スタミナをつける。 水族館泳法が出来るようになる。 | | |
| 15 | | 試験 | 400mクロールタイム測定、背泳泳力評価 | 完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 技術レベルによって授業外練習の必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------|--|----------|----------|----|---|------|------|
| 科目名 | マリンスポーツ I 1 | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 原島大樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼ニ2年制 | 授業 形態 | 演習 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ダイビング機材ショップスタッフを経験。現在は、サーフィンスクール代表取締役を務める。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技である。 | | | | | | |
| 到達目標 | クロールと背泳の技術が出来るようになる。 技術と体力を養いクロールで200m泳ぐことが出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(実技) 200mクロールのタイムの測定。 背泳の泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 学校外施設の利用方法の確認。技術レベルによるコース分けを行う。 | 入学期の授業計画・内容における自分の目標の理解と個人目標の策定。持参品の確認 |
| 2 | | 演習 | 前期の授業内容を説明し各科目の明確な学習の目的、目標、方法を理解することが出来る | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 3 | | 演習 | 水慣れと呼吸方法を理解する。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 4 | | 演習 | ストリームラインの重要性を理解する。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 5 | | 演習 | クロールキックが出来るようになる。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 6 | | 演習 | クロールのプルが出来るようになる。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 7 | | 演習 | クロールのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 8 | | 演習 | クロールで泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 9 | | 演習 | 背泳でのストリームラインを理解する。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 10 | | 演習 | クロールのスタート出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 11 | | 演習 | 背泳のキックが出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 12 | | 演習 | 背泳のプルが出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 13 | | 演習 | 背泳のキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 14 | | 演習 | 背泳で泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。 | 夏季休暇中の個々の練習方法を確認する。 |
| 15 | | 試験 | 200mクロールタイム測定、背泳泳力評価 | 完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 技術レベルによって授業外の練習を行う必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|---------|---|----------|----------|----|---|------|------|
| 科目名 | マリンスポーツ I 2 | 必修 選択 | 選択 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 原島大樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ダイビング機材ショップスタッフを経験。現在は、サーフィンスクール代表取締役を務める。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技。 | | | | | | |
| 到達目標 | 技術と体力を養いクロールで400m泳ぐことが出来るようになる。 平泳ぎとサバイバルスイムの技術が出来るようになる。 サバイバルスイム(巻き足・潜水・特殊泳法)の技術が出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(実技) 400mクロールのタイムの測定。 平泳ぎの泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 後期の授業内容を説明し各科目の明確な学習の目的、目標、方法を理解することが出来る。 | 大学前カウエンターテインメントにおける自分の目標の理解と個人目標の策定。持参品の確認 |
| 2 | | 演習 | 技術レベルによるコース分けを行う。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 3 | | 演習 | 平泳ぎのキックを理解する。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 4 | | 演習 | 平泳ぎのキックが出来るようになる。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 5 | | 演習 | 平泳ぎのプルを確認する。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 6 | | 演習 | 平泳ぎのプルが出来るようになる。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 7 | | 演習 | 平泳ぎのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。 | 自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。 |
| 8 | | 演習 | 平泳ぎのスタートを覚える。スタミナをつけ、更なる体力と泳力の向上を図る。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 9 | | 演習 | サバイバルスイムの紹介(巻き足・潜水・特殊泳法) | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 10 | | 演習 | ヘッドアップクロールとオーストラリアンクロール サイドキックが出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 11 | | 演習 | 25m潜水が出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 12 | | 演習 | 巻き足が出来るようになる | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 13 | | 演習 | オープンウォーターを意識した呼吸法が出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 14 | | 演習 | スタミナをつける。 水族館泳法が出来るようになる。 | 技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。 |
| 15 | | 試験 | 400mクロールタイム測定、背泳泳力評価 | 完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 技術レベルによって授業外練習の必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|----|---|------|----------|
| 科目名 | 基礎生物 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 菅野宏 文 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | 学芸員として現場での動物管理経験あり。また現在は執筆活動を主に行っており、多数著書あり。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 細胞と組織、恒常性(体液と内部循環、外呼吸と血液のガス交換、免疫と血液型、排出、神経系)、調整と恒常性(自律神経・ホルモンによる調節)、刺激と反応(動物の感覚器、動物の行動)、遺伝と変異(メンデルと遺伝、染色体と遺伝性と遺伝子の本体、変異と特殊な遺伝)等。 | | | | | | |
| 到達目標 | 高校時に履修すべき知識はもちろんのこと、専門学生として1歩進んだ知識を身に付け、動物園。水族館、企業等の採用試験及び業務に対応できる学力を培う。 生物の基礎を理解し、生体管理・繁殖に関わる知識を身に着ける。 | | | | | | |
| 評価方法と 基準 | 出席率・試験成績により判断する。出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、筆記試験に加点する。 筆記試験との合計で、80点以上がA評価、70点以上がB評価、60点以上がC評価で、80点未満がD評価(不合格)となる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|----|------|----------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 細胞の構造と機能を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 2 | | 講義 | 細胞の構造と機能を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 3 | | 講義 | 動物の組織と器官を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 4 | | 講義 | 原形質と細胞膜について理解する。 | 浸透圧の計算問題を各自行う。 |
| 5 | | 講義 | 内呼吸(異化)の仕組みを理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 6 | | 講義 | 個体と外部環境、生物の適応について理解する。 | 環境への生物の適応例を1つ調べる。 |
| 7 | | 講義 | 体液と内部環境・血液の働きを理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 8 | | 講義 | 体液と内部環境・心臓と血管系、血液の循環を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 9 | | 講義 | 外呼吸と血液のガス交換を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 10 | | 講義 | 免疫と血液型を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 11 | | 講義 | 排出 I ・腎臓の構造と機能を理解する。 | 本日の講義の復習 |
| 12 | | 演習 | 大町自然学校実習 | 実習の準備 |
| 13 | | 演習 | 相模湖カヌー実習 | 実習の準備 |
| 14 | | 試験 | 期末試験(ペーパーテスト実施) | 試験に対する準備を行う |
| 15 | | 講義 | 試験解答及び全過程の総括 | 理解しにくかった項目を予め調べる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| (参考書) 滋慶教育科学研究所監修「ECO業界で役立つ基礎生物」 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 基礎生物 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 菅野宏 文 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 日本蛇族学術研究所研究員、伊豆アンディランド学芸員、現在は執筆活動を行う。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 細胞と組織、恒常性(体液と内部循環、外呼吸と血液のガス交換、免疫と血液型、排出、神経系)、調整と恒常性(自律神経・ホルモンによる調節)、刺激と反応(動物の感覚器、動物の行動)、遺伝と変異(メンデルと遺伝、染色体と遺伝性と遺伝子の本体、変異と特殊な遺伝)等。 | | | | | | |
| 到達目標 | 高校時に履修すべき知識はもちろんのこと、専門学生として1歩進んだ知識を身に付け、動物園。水族館、企業等の採用試験及び業務に対応できる学力を培う。 | | | | | | |
| 評価方法と 基準 | 出席率・試験成績により判断する。出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、筆記試験に加点する。 筆記試験との合計で、80点以上がA評価、70点以上がB評価、60点以上がC評価で、80点未満がD評価(不合格)となる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|-------|------|-----------------|-----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/3 | 講義 | 排出Ⅱ・各種動物の排出器 | 本日の講義の復習 |
| 2 | 10/17 | 講義 | 神経系Ⅰ・神経細胞の構造 | 本日の講義の復習 |
| 3 | 10/17 | 講義 | 神経系Ⅱ・中枢神経と末梢神経 | 本日の講義の復習 |
| 4 | 10/31 | 講義 | 自律神経による調節 | 本日の講義の復習 |
| 5 | 11/7 | 講義 | ホルモンによる調節 | 本日の講義の復習 |
| 6 | 11/12 | 講義 | 刺激と感覚・刺激と興奮、摂受 | 環境への生物の適応例を1つ調べる。 |
| 7 | 11/21 | 講義 | 〃、脊椎動物の各感覚器 | 本日の講義の復習 |
| 8 | 11/28 | 講義 | 〃、各種無脊椎動物の感覚器 | 無脊椎動物の感覚器を1つ予め調べる。 |
| 9 | 12/5 | 講義 | 生物の反応・運動 | 本日の講義の復習 |
| 10 | 12/12 | 講義 | メンデルと遺伝・遺伝の法則 | メンデルについて予め調べておく |
| 11 | 12/19 | 講義 | 染色体と遺伝子 | 本日の講義の復習 |
| 12 | 1/16 | 実習 | 性と遺伝子・性の決定 | 本日の講義の復習 |
| 13 | 10/24 | 研修 | 海外研修 | 訪問する国で行われる野生動物保護を調べる。 |
| 14 | 1/23 | 試験 | 期末試験(ペーパーテスト実施) | 試験に対する準備を行う |
| 15 | 1/30 | 講義 | 試験解答及び全過程の総括 | 理解しにくかった項目を予め調べる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| (参考書) 滋慶教育科学研究所監修「ECO業界で役立つ基礎生物」 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | 魚類学 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木倫明 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼一3年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | 多数の水族館で幅広い生体の飼育・展示経験を持つ。水族館の館長を務めた経験もあり。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 本コースの受講学生の多くは、水族館への就職を希望していると思われる。組織(設置者)にもよるが、水族館に就職した際に配属される部署は流動的である。例えばイルカトレーナーを希望したとしても魚類飼育チームに配属されることは普通に起こりうる。そうした点を考慮し、一般的に水族館の主たる展示生物といえる魚類についての情報を多角的に講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 得られた知識が水族館における飼育(特に魚類)展示業務に活用できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験(80%) ・出席率(10%) ・授業態度(10%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|---|-------|----------------------------|---------------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | オリエンテーション: 前期授業の進め方 | |
| 2 | 講義 | 分類(1): 分類の概念・学名、標準和名 | 「飼育ハンドブック 3」P. 33~47を通覧する |
| 3 | 講義 | 分類(2): 分類体系、動物界の各門 | 「飼育ハンドブック 3」P. 54~90を通覧する |
| 4 | 講義 | 総論: 分類学の応用、「魚類」を理解 | 「魚類学」P. 1~5を通覧する |
| 5 | 講義 | 無顎類: 分類学の応用、構成メンバーを知る | 「魚類学」P. 7~10を通覧する |
| 6 | 講義 | 軟骨魚類(1): 構成メンバーを知る | 「魚類学」P. 12~13を通覧する |
| 7 | 講義 | 軟骨魚類(2): 板鰓類(サメ・エイ類)を知る | 「魚類学」P. 13~17を通覧する |
| 8 | 講義 | 硬骨魚類(1): 「肉鰭類」の構成メンバーを知る | 「魚類学」P. 19~21を通覧する |
| 9 | 講義 | 硬骨魚類(2): 「条鰭類」の構成メンバーを知る | 「魚類学」P. 23~25を通覧する |
| 10 | 講義 | 硬骨魚類(3): 「真骨類」の構成メンバーを知る | 「魚類学」P. 26~34を通覧する |
| 11 | 講義 | 生息環境: 分布や回遊、淡水・海水魚の定義 | 「魚類学」P. 50~63を通覧する |
| 12 | 講義 | 講義のまとめ(1): 「分類」から「軟骨魚」まで | 「配布資料(分類~軟骨魚類)」を通覧する |
| 13 | 講義 | 講義のまとめ(2): 「硬骨魚」から「生息環境」まで | 「配布資料(硬骨魚~生息環境)」を通覧する |
| 14 | 講義・試験 | ペーパーテストの実施 | |
| 15 | 講義 | 解答・解説・前期の総括 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | |
| 「自作配布資料」・「魚学入門(恒星社厚生閣)」・「新・飼育ハンドブック水族館編1~5(日本動物園水族館協会)」・その他 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|-----------|
| 科目名 | 魚類学 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木 (倫) |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼一3年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 東海大学卒業・串本海中公園、南知多ビーチランド、マリンピア日本海などでの勤務経験 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 本コースの受講学生の多くは、水族館への就職を希望していると思われる。組織(設置者)にもよるが、水族館に就職した際に配属される部署は流動的である。例えばイルカトレーナーを希望したとしても魚類飼育チームに配属されることは普通に起こりうる。そうした点を考慮し、一般的に水族館の主たる展示生物といえる魚類についての情報を多角的に講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 得られた知識が水族館における飼育展示業務に活用できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験(80%) ・出席率(10%) ・授業態度(10%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 魚類の生理(1):「呼吸」「循環系」について | 「飼育ハンドブック 3 生理」を通覧する |
| 2 | | 同上 | 魚類の生理(2):「消化吸收」「排泄」について | 同上 |
| 3 | | 同上 | 魚類の生理(3):「神経系」「感覚」について | 同上 |
| 4 | | 同上 | 魚類の繁殖(1):「集団産卵」「一夫多妻」につ | 「飼育ハンドブック1 繁殖」を通覧する |
| 5 | | 同上 | 魚類の繁殖(2):「性の様式」「雌雄同体」につ | 同上 |
| 6 | | 同上 | 魚類の繁殖(3):「卵と仔稚魚」について | 同上 |
| 7 | | 同上 | 魚類の食性(1) | 「魚学入門第13章」を通覧する |
| 8 | | 同上 | 魚類の食性(2) | 同上 |
| 9 | | 同上 | 魚類の共生 | 「配布資料」を通覧する |
| 10 | | 同上 | 魚類の防御(1) | 同上 |
| 11 | | 同上 | 魚類の防御(2) | 同上 |
| 12 | | 同上 | 講義のまとめ(1):「生理(1)」から「繁殖(3)」ま | 配布資料(分類～軟骨魚類)を通覧する |
| 13 | | 同上 | 講義のまとめ(2):「食性(1)」から「防御(2)」ま | 配布資料(硬骨魚～生息環境)を通覧す |
| 14 | | 試験 | ペーパーテストの実施 | |
| 15 | | 振り返り | 解答・解説・前期の総括 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 「自作配布資料」・「魚学入門(恒星社厚生閣)」・「新・飼育ハンドブック水族館編1～5(日本動物園水族館協会)」・その他 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | 次世代のための環境教育 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 加藤直邦 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ケニア政府公認プロサファリガイド | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 地球のしくみや、人間の歴史を通じて環境問題を考え、次世代型環境教育ビジネスに活かせる知識や技術を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 地球環境や自然保護についての基礎を理解し、知識を身につける。 グローバル社会に対応するための、生態学を通じた英語を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験60% 2) プレゼンテーション20% 3) 出席率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------|----|--|-----------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 何故環境問題を学ぶのか知る | エコ検定試験について調べる |
| 2 | | 講義 | 環境問題の歴史を知る | エコ検定過去問題集で復習 |
| 3 | | 講義 | 身近な自然について考える1 | 身近な自然を自分で探してみる |
| 4 | | 講義 | 宇宙のしくみと地球の歴史を知る | エコ検定過去問題集で復習 |
| 5 | | 講義 | 大気にまつわる環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 6 | | 講義 | 大気にまつわる環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 7 | | 講義 | 海洋のしくみと環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 8 | | 講義 | ケニア研修ガイダンス | 海外研修の必要性を考える |
| 9 | | 講義 | 水循環と環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 10 | | 講義 | 土壌と森林について学ぶ1 | エコ検定過去問題集で復習 |
| 11 | | 講義 | 土壌と森林について学ぶ2 | エコ検定過去問題集で復習 |
| 12 | | 講義 | 身近な自然について考える2 | プロジェクトワイルドを学ぶ |
| 13 | | 講義 | 中間テスト前のおさらい | エコ検定過去問題集で復習 |
| 14 | | 試験 | 中間テスト | 試験範囲の予習と対策 |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 不正解問題の訂正 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 エコ検定公式テキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|------|------|
| 科目名 | 次世代のための環境教育 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 加藤直邦 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | | |
| 教員の略歴 | ケニア政府公認プロサファリガイド | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 地球のしくみや、人間の歴史を通じて環境問題を考え、次世代型環境教育ビジネスに活かせる知識や技術を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 地球環境や自然保護についての基礎を理解し、知識を身につける。 グローバル社会に対応するための、生態学を通じた英語を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験60% 2) プレゼンテーション20% 3) 出席率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------|----|--|-----------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 何故環境問題を学ぶのか知る | エコ検定試験について調べる |
| 2 | | 講義 | 環境問題の歴史を知る | エコ検定過去問題集で復習 |
| 3 | | 講義 | 身近な自然について考える1 | 身近な自然を自分で探してみる |
| 4 | | 講義 | 宇宙のしくみと地球の歴史を知る | エコ検定過去問題集で復習 |
| 5 | | 講義 | 大気にまつわる環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 6 | | 講義 | 大気にまつわる環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 7 | | 講義 | 海洋のしくみと環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 8 | | 講義 | ケニア研修ガイダンス | 海外研修の必要性を考える |
| 9 | | 講義 | 水循環と環境問題を学ぶ | エコ検定過去問題集で復習 |
| 10 | | 講義 | 土壌と森林について学ぶ1 | エコ検定過去問題集で復習 |
| 11 | | 講義 | 土壌と森林について学ぶ2 | エコ検定過去問題集で復習 |
| 12 | | 講義 | 身近な自然について考える2 | プロジェクトワイルドを学ぶ |
| 13 | | 講義 | 中間テスト前のおさらい | エコ検定過去問題集で復習 |
| 14 | | 試験 | 中間テスト | 試験範囲の予習と対策 |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 不正解問題の訂正 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 エコ検定公式テキスト | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|-----------------------|
| 科目名 | 植物学 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 中西由美子 川端白人 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | 環境系コンサルタント会社・NPO法人勤務 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 植物の生態系における役割や働き、植物の個々の部分の形態的な特徴や生活の仕方など、生物の時間で勉強するような内容ですが、これからも植物の知識を深めていく際の基礎になる部分です。テキストだけでなく、ぜひとも身近な植物も手に取って観察するようにしてください。覚えたものは、早速庭や公園で植わっているものでも確かめてください。また、生活と関わる植物についても注目してください。年中行事や伝統的な行事にも目を向け、植物がどうかかわってきたかにも興味をもって、家族や年配の人たちにも尋ねてみてください。 | | | | | |
| 到達目標 | グリーンセイバー検定 ベイシックに合格する実力をつけること。 ベイシックでは、植物に関する基本的な知識や生態系の知識をもつとともに、人と自然の関係を身近なところから理解することを目標としている。 植物の外部形態、生活史、生息環境、植物の分類の基礎、植物の文化、植物のめぐみ が、ベイシックテキストの項目となっているが、これらの内容を理解し、6月末の検定試験に臨む実力をつけること。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 通常の授業の受講態度 40% 模擬試験 60% 筆記試験評価: GPA (S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------|----|--|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 「植物分類の基礎知識」 分類の歴史と地質時代における植物の進化の歴史を理解することができる。 | グリーンセイバーのサイトをチェックする |
| 2 | | 講義 | 「植物の外部形態」 植物の各部位の基本的形態と役割機能を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 3 | | 講義 | 「植物の生活史と生育特性」 植物の生育型と生活史の特徴を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 4 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物の日常管理の基本や移植方法の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 5 | | 講義 | 「植物の栽培・管理」 植物を増やすための有性生殖と無性生殖の基本を理解し、個々の方法を習得する。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 6 | | 講義 | 「植物の文化」 文化の基礎となる季節や暦と植物との関連を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 7 | | 講義 | 「植物のめぐみ」 木材の利用方法から農耕、里山の伝統的利用について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 8 | | 講義 | 「植物の生育環境」 環境の物理的要素と植物との関わりと各条件による影響の受け方を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 9 | | 講義 | 「植生の基礎知識」 植生の種類を知り、世界と日本の植生帯の基本を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 10 | | 演習 | 長野県大町市の「千年の森 自然学校」において植物全般の識別をすることができる。 | 人工林から派生した二次林について事前に調べておく事 (ミズナラ・コナラ・スギ・ヒ・ホウキ・リウグなど) |
| 11 | | 講義 | 「生態系の基礎知識」 生態系の構成要素を理解し、食物連鎖などの関係性を理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 12 | | 講義 | 「生態系と物質循環」 水や空気、炭素、窒素など、生態系を構成する物質の循環について理解することができる。 | テキストの該当の章について目を通す |
| 13 | | 講義・試験 | グリーンセイバー模擬試験・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 14 | | 演習 | 「里山の魅力再発見」 人が里山に関心を持ち、集まるようにする工夫をプレゼンできる。 | |
| 15 | | 講義 | テストの答え合わせと解説 模擬試験の自己採点を行い、自分にとっての課題を把握することができる。 | テキストを見ながら仮に答え合わせをする。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グリーンセイバーベイシック(テキスト) | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|-------------------|
| 科目名 | 植物学 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 中島 由里子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 1 年 2 年 制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | |
| 教員の略歴 | フラワーショップ店長の経験を経て、現在は一般向けのワークショップ事業等も展開している。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | グリーンセイバーベーシックの試験対策として実技を通じ、植物の基礎的な生態と形態を学び、植物が環境に及ぼす影響、人に与える効果を理解し、植物の活用法を学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | グリーンセイバーベーシックの合格を目指す。 テキストP137～P204の内容を実践から深く理解する。 第3章:植物の栽培・管理 第4章:植物の文化・めぐみ ◆試験対策の実技では、植物の状態に応じ管理を含めて行う。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率:50% 植物管理状態:30% 筆記試験:20% | | | | | |

| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
|------------|-------|--------------------------------------|--------------------|
| 1 | 講義・演習 | 授業の学習内容、到達目標の共有。 目的、方法を理解。 | 学校内で管理する植物(場所)を知る。 |
| 2 | 講義・演習 | 校舎内の主要な樹木・草本を理解する。 | テキストP203～204熟読 |
| 3 | 講義・演習 | 植物の灌水方法を理解する。 ◆灌水実技 | テキストP137～138熟読 |
| 4 | 講義・演習 | 植物の肥料、病原体を理解する。 ◆肥料・駆虫実技 | テキストP139～145熟読 |
| 5 | 講義・演習 | 植物の整枝・剪定方法を理解する。 ◆剪定実技 | テキストP145～151熟読 |
| 6 | 講義・演習 | 植物の移植方法が理解を理解する。 ◆植え替え実技 | テキストP152～158熟読 |
| 7 | 講義・演習 | 植物の繁殖(挿し木)方法が理解を理解する。 ◆挿し木実技 | テキストP139～148熟読 |
| 8 | 講義・演習 | 植物の繁殖(取り木)方法を理解する。 ◆取り木実技 | テキストP159～167熟読 |
| 9 | 講義・演習 | 植物の文化(春・秋の七草・五節句)を理解する。 | テキストP181～187熟読 |
| 10 | 講義・演習 | 植物の活用法、里山の利用法を理解する。 | テキストP188～199熟読 |
| 11 | 講義・演習 | 検定試験前の対策と復習ができる。 | テキストP137～P204熟読 |
| 12 | 講義・演習 | 植物の夏越し方法を理解する。 ◆植物の閑散と記録、撮影。 | 緑化スペースの観察及び灌水。 |
| 13 | 講義・演習 | 植物の夏越し後の管理方法を理解する。 2ヶ月間の変化を確認、比較。 | 緑化スペースの観察及び灌水。 |
| 14 | 試験 | 筆記試験60分 | テキストP137～P204熟読 |
| 15 | 講義・演習 | 秋冬に向けての管理方法を理解する。 | 緑化スペースの観察及び灌水。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業の最後15分間は次回までの課題と準備を理解する時間とする。 | |

| | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|----------|
| 科目名 | 水槽レイアウト I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 早坂誠 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | ペットショップの店長。水草レイアウトや観賞魚水槽の制作・管理を行う企業の代表としても活躍中。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年、自然環境を保全・維持する目線から、また癒しの空間を求めることが多くなったことに加え、水草が美しく管理・育成された水槽の需要が高まっている。個人宅はもちろんのこと、銀行や病院さらには水族館でも水草レイアウト水槽が展示されるようになり、その技術者が求められる時代となった。また、飼育用品基礎で学ぶ知識がこの授業でも多くの商品にかかわり合うために必要となること、制作工程において必要となる生体に対しても淡水魚研究が役立つ。この授業では、座学と共にレイアウト実習を通して水草レイアウト水槽のプロフェッショナルを目指す。実際に生物を使用するため内容に変更が出る場合がある。 | | | | | |
| 到達目標 | 閉鎖的水槽空間で、天然素材を使用してレイアウト構図を創ることが出来るようになる。 水草育成に最適な過システムの仕組みを学び、実際に使用できるようになる。 水槽内での水草育成において二酸化炭素の必要性を学び専用添加器具を実際に使用できるようになる。 水草が育成する最良の水質を学び、水槽内で調整できるようになる。 水草レイアウトの管理を行うことで、水槽管理の長期維持が出来るようになる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 小テスト20% 定期試験80% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|--|----|-------|--|--|-------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | | 講義 | 前期の授業内容を説明、科目日の最終目標の見本を画像を見ながら今後の授業を理解することができる。 | 水槽管理時に使用するホースの巻き方を実践・習得する。 | | |
| 2 | | 講義 | 水草水槽の全体的な循環とシステムの仕組みを理解することができる。 | 各自システムをイラストを含むレポート提出で授業内容の再確認する。 | | |
| 3 | | 演習 | ガラスアクアリウム制作(石・流木などの天然素材での構図制作)を通じて、構図を理解し、実際の水槽レイアウト制作に反映することができる。 | ガラスの選択と事前の構図案の制作 | | |
| 4 | | 演習 | ガラスアクアリウム制作(水草植栽)を通じて、構図を理解し、実際の水槽レイアウト制作に反映することができる。 | 前回授業からの構図修正案と水草植栽のイメージデザインを事前制作 | | |
| 5 | | 講義・演習 | 外部式フィルターの仕組みと名称を理解して、設置から定期的な清掃・トラブル時の対応が出来る。 | 水草水槽のスズメ内、外部式フィルターの項目を事前予習。アクアリウムでの可動状態の確認 | | |
| 6 | | 講義・演習 | 二酸化炭素添加装置の必要性と仕組みを学び実際に使用することができる。 | 水草水槽のスズメ内、二酸化炭素添加器具をイラスト記載提出 | | |
| 7 | | 講義 | 水草育成に必要な光の質と光量について理解することができる。 | 光の色に対してのケルビン値を事前把握する。現在ある、観賞魚用照明器具の数値を表にまとめる | | |
| 8 | | 講義 | 水草の進化と分布拡散・遺伝的構造・保全について学び、どのような過程で水草が進化したか理解することができる。 | 水草水槽のスズメ内、水草図鑑の内容を理解、学名や特徴などの把握をおこなう。 | | |
| 9 | | 講義 | 水草育成に対して、底床素材の種類と特徴、使用方法を説明できる。 | 水槽レイアウトの班分けを決定 | | |
| 10 | | 講義 | 水生植物に必要な栄養素と添加方法を学び実践できる。 | 制作する水草レイアウトの参考見本の収集 | | |
| 11 | | 演習 | 水草レイアウト構図をイラストや文章などを用いて記することができる。 | 班ごとのレイアウトデザインの準備と修正・素材の収集 | | |
| 12 | | 演習 | 決定した構図を水槽レイアウトに反映することができる。 | 素材の選択と使用水草の準備を行う。 | | |
| 13 | | 演習 | 専用器具を使用して水草の植栽が実践できる。 | 水草植栽とレイアウト制作を時間外授業にあてる。 | | |
| 14 | | 講義・試験 | テスト内容の予習・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 | | |
| 15 | | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、水草レイアウトの制作・管理方法の理解を深める | 試験範囲からの復習と教科書を再理解するための熟読。 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 * 指示した時のみスマートフォンなどの端末での検索を許可する。 | | | | | | |
| 教科書「水草水槽のスズメ」 参考資料「デュプラジャパン理想的な水槽」 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|----|---|----------|
| 科目名 | 水槽レイアウト I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 早坂誠 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | 有限会社コデラペットショップ店長 / 有限会社エイチ・ツー代表取締役 / 渋谷店舗Sensuous代表 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 長期にわたっての水槽管理は観賞魚業界・水族館運営にとって最も大切な技術の一つになります。この授業は観賞魚飼育技術。水草育成技術のさらなるレベルアップをはかるとともに水槽長期維持におこる様々な問題を掘り下げて解決していきけるように学びます。また、多くの器具を使用して管理技術を習得するため、飼育用品基礎の授業で学ぶ知識が、この授業でも必要になります。水族館や観賞魚業界の即戦力となるよう学習してください。授業は座学とともに大型水槽の管理実習を行い管理の正しい方法を学びます。実際に生物を使用するため内容に変更がある場合があります。 | | | | | |
| 到達目標 | 観賞魚飼育・水草育成水槽を長期にわたって維持管理を行えるメンテナンス作業を習得することができる。 淡水水槽・海水水槽での藻類発生の原因を理解し、予防する技術、除去する技術を習得できる。 水 槽で起こりうる様々なトラブル問題、原因を理解して、対策を事前に行う技術・修繕する技術を習得することが できる。 水草育 成・サンゴの育成について正しい知識を理解することができる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 小テスト20% 定期試験80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|---|-------|-------|--|------|---------------------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 4月11日 | 講義 | 半期の授業内容を説明、当科目の最終目標の見本を画像を見ながら今後の授業を理解することができる。 | | 実際の水槽管理時に起こった事例と解決方法のレポート提出 | |
| 2 | 4月25日 | 講義 | 水槽内で起こる白濁の原因を理解し予防と改善方法を述べることができる。 | | アクアariumにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。 | |
| 3 | 5月9日 | 演習・実技 | ガラスアクアリウム制作(石・流木などの天然素材での構図制作)を昨年同様実施。構図の理解力をさらに深め実際の水槽レイアウト制作に反映できる。 | | ガラスの選択と事前の構図案の制作 | |
| 4 | 5月16日 | 演習・実技 | ガラスアクアリウム制作(水草植栽)を昨年同様実施。構図の理解力をさらに深め実際の水槽レイアウト制作に反映できる。 | | 前回授業からの構図修正案と水草植栽のイメージデザインを事前制作 | |
| 5 | 5月30日 | 講義 | 水草レイアウト水槽における藻類発生原因を理解して、防止策・予防策、改善策が実践できる。 | | 実際に経験した藻類の発生原因と改善策のレポート提出 | |
| 6 | 6月13日 | 講義 | 水槽で起こる多種の水漏れ原因を理解し、現場で対応できる。 | | 実際に経験した水漏れの発生原因と改善策のレポート提出 | |
| 7 | 6月20日 | 演習 | 水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を理解説明することができる。 | | アクアariumにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。 | |
| 8 | 6月27日 | 講義 | 水草の進化と分布拡散・運送的構造・保全について学び、どのような過程で水草が進化したか理解することができる、 国立科学博物館田中法生先生講義 | | 水草水槽のススメ内、水草図鑑の内容を理解、学名や特徴などの把握をおこなう。 | |
| 9 | 7月4日 | 演習 | 水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を理解説明することができる。 | | アクアariumにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。 | |
| 10 | 7月11日 | 講義 | 水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を使用、実践することができる。 | | メンテナンス道具使用時の問題点・改善点をレポート提出 | |
| 11 | 7月18日 | 講義 | 淡水魚水槽で使用する様々な添加剤の使用方法和効果を述べることができる。 | | 現在まで使用した添加剤の種類と効果等の感想のレポート提出 | |
| 12 | 8月29日 | 講義 | 水槽メンテナンスに必要な薬品が使用できるようになる。 | | アクアariumにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。 | |
| 13 | 9月5日 | 実技 | 日本の湧水再現の大型水槽の構造を理解し説明することができる。 | | 新社屋に設置予定の大型水槽の生体レイアウトイメージのアンケートを行う。 | |
| 14 | 9月12日 | 講義・試験 | テスト内容の予習・60分の筆記試験 | | 試験範囲からの予習と対策 | |
| 15 | 9月19日 | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、長期間水槽メンテナンス方法の理解を深める | | 試験範囲からの復習と教科書を再理解するための熟読。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 熱帯魚・水草図鑑3000種・各水草図鑑 教科書「水草水槽のススメ」 参考資料「デュブラジャパン理想的水槽」 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------|----|---|-----------|
| 科目名 | 生物分類研究 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 菅野宏史 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科昼二2年制 | 授業 形態 | 講義・演 習 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | 学芸員として現場での動物管理経験あり。また現在は執筆活動を主に行っており、多数著書あり。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年大きく変わりつつある生物分類の体制において、最新の知識を身につける。五界説の動物界または3ドメインセオリーのオピストコンタ界動物亜界の門・綱・目のレベルまでの分類体制を講義において行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 高校時に履修すべき項目はもちろんのこと、専門学校生として一歩進んだ知識を身につけ、動物園・水族館・企業などの採用試験に対応できる学力を培う。また、生物分類技能検定3級において、動物における設問はすべて解答できる学力を身につける。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率70%以上 2点 80%以上 3点 90%以上 5点 上記の点数を筆記試験に加算する。 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|--|-------|-------------------------------|-----------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 生物の分類;分類の概念 | 分類の必要性を考える。 |
| 2 | 講義 | 現在の分類方法;表形、分岐 他 | 身近な生物を数種仲間分け。 |
| 3 | 講義 | リンネ式分類学;階級、学名 | 動物を1種選び門~属までを調べる。 |
| 4 | 講義 | 種 の 概念;定義・形態的・生物的 | 雑種が種ではない理由を調べる。 |
| 5 | 講義 | 学名;国際動物命名規約、二名法 | 動物を1種選び学名を調べる。 |
| 6 | 講義 | 生物分類の大綱;五界説の動物界 | 生物を5つの界に分けた理由を調べる。 |
| 7 | 講義 | 最新の分類法;古細菌と3ドメイン | 五界説の矛盾を調べる。 |
| 8 | 講義 | 生物の体制;分散型と集中型 | 各体制の生物を数種調べる。 |
| 9 | 講義 | 脊椎動物通性 I ;骨格等 | 頸椎の数が7つではない哺乳類を調べる。 |
| 10 | 講義 | 脊椎動物通性 II ;呼吸・消化 | 左右対称の呼吸器を持たないものを調べる。 |
| 11 | 講義 | 脊椎動物通性 III ;筋肉・感覚器 | 目、耳などの感覚器を持たないものを調べる。 |
| 12 | 講義 | 伊豆水族館実習(水生) 大町自然学校実習(野生) | 実習の準備 |
| 13 | 講義 | 大島ダイビング実習(水生) 相模湖カヌー実習(野生) | 実習の準備 |
| 14 | 講義・試験 | 前期試験・ペーパーテスト実施 | 試験に対する準備を行う。 |
| 15 | 講義 | 試験解答および全過程の総括 | 理解しなかった項目を調べる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 予めテーマを出題し、当日までに調べるまたは作成する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】(社)日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック・水族館編」Ⅲ (参考書)内田亨著(1965)「動物系統分類の基礎」(株式会社 北隆館) | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 動物の栄養と管理 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 菅野宏 文 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 日本蛇族学術研究所研究員、伊豆アンディランド学芸員、現在は執筆活動を行う。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 動物栄養(三大栄養素と副栄養素)、物質交代とエネルギー交代、飼養動物に関する法令、甲虫類の飼養法、淡水魚の飼養法、両生類・爬虫類の飼養法、鑑賞鳥の飼養法、小型哺乳類の飼養法、食虫植物の栽培と管理等。 | | | | | | |
| 到達目標 | 業界(動物園・ペットショップ等)のニーズに応えられるレベルまで動物の飼育・管理能力を身に付け、飼養動物の異常の早期発見及び速やかに対処できる能力を身に付ける。 また、ショップなどの接客に必要な説明及び解説ができる力を培う。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席率・試験成績により判断する。出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、筆記試験に加点する。 筆記試験との合計で、80点以上がA評価、70点以上がB評価、60点以上がC評価で、80点未満がD評価(不合格)となる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|------|--------------------|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/2 | 講義 | メダカ・金魚等淡水魚の飼育総論 | 三大栄養素の主な食品について調べる。 |
| 2 | 10/9 | 講義 | 水質の調整などを含む水の管理 | ビタミンを1つ選び欠乏症について調べる。 |
| 3 | 10/16 | 講義 | メダカ・金魚等の飼育法(管理・繁殖) | 口から肛門までの名称をすべて覚えてくる。 |
| 4 | 10/30 | 講義 | 甲虫類総論(形態・生態・生理等) | 次回の予習を行う |
| 5 | 11/6 | 講義 | 両生類の飼育法(管理と取扱) | 次回の予習を行う |
| 6 | 11/12 | 講義 | 爬虫類カメ目・水棲ガメの飼育 | 次回の予習を行う |
| 7 | 11/20 | 講義 | 爬虫類カメ目・陸棲ガメの飼育 | 動物販売時説明書を使用しながら説明練習 |
| 8 | 11/27 | 講義 | 有鱗目・トカゲ亜目の飼育と取扱 | 特定動物を1種選び調べる。 |
| 9 | 12/4 | 講義 | 有鱗目・ヘビ亜目の飼育と取扱 | 特定外来生物を1種選び調べる。 |
| 10 | 12/11 | 講義 | 鳥類の飼育・播餌鳥 | 天然記念物を1種選び調べる。 |
| 11 | 12/18 | 講義 | 鳥類の飼育・播餌鳥 | 登録票について説明できるよう練習。 |
| 12 | 1/15 | 実習 | 小型哺乳類(ウサギ・チンチラ等) | 実習の準備 |
| 13 | 10/23 | 実習 | 海外研修 | 実習の準備 |
| 14 | 1/22 | 試験 | 期末試験(ペーパーテスト実施) | 試験に対する準備を行う |
| 15 | 1/29 | 講義 | 試験解答及び全過程の総括 | 理解しにくかった項目を予め調べる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| (参考書) 滋慶教育科学研究所監修(2006)「イラストで見る動物の健康管理」(株式会社滋慶教育事業部) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|---|------|------|
| 科目名 | 動物の健康管理 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 本村伸子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 専二 2年制 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 近年、ペット業界においても「食育」という言葉が注目されてきている。市販のペットフードの商品の幅も広がってきていて、専門的な知識が求められる時代になってきている。犬たちの健康を考える上でも、個々の犬たちに合ったフードを選ぶ目を養ってほしいです。さらに、市販のペットフードだけに頼るのではなく、手作り食についてもオーナーに対して指導が出来るようになって欲しい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 市場で販売されているペットフードを適正に見極めて、良いフードを選べるようになる。犬のオーナーに対して食事の指導が出来るようになる。体調の変化やライフステージに応じた食事を検討して、提案できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% 筆記試験 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------|----|------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 食事の大切さを学び、自分の生活を見直すことが出来る | 学生自身の普段の生活と食事について考える |
| 2 | | 講義 | ペットフードの選び方①: 学校犬が食べているドッグフードの内容を判断できる | |
| 3 | | 講義 | ペットフードの選び方②: ペットフードのメリットを理解する | ペットショップに行って、どのようなフードが売られているかを調査する |
| 4 | | 講義 | ペットフードの選び方③: ペットフードのデメリットを理解する | |
| 5 | | 講義 | ペットフードの選び方④: ペットフードのデメリットを理解する | 担当している犬たちの食事を調査 |
| 6 | | 講義 | ペットフードの選び方⑤: 酸化防止剤の意味を理解する | |
| 7 | | 講義 | ペットフードの選び方⑥: 様々な添加物について理解する | |
| 8 | | 講義 | ペットフードの選び方⑦: 原材料の問題点を考える | |
| 9 | | 講義 | ペットフードの選び方⑧: 手作り食との併用を理解する | 担当している犬たちの食事の問題点を考える |
| 10 | | 講義 | 手作りご飯の基本①: 骨や肉を生で与える場合の注意点を理解する | |
| 11 | | 講義 | 手作りご飯の基本②: 穀類を与える場合の注意点を理解する | |
| 12 | | 講義 | 手作りご飯の基本③: 動物性食品の特徴を理解する | |
| 13 | | 講義 | 手作りご飯の基本④: 動物性食品の特徴を理解する | |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲内容をきちんとまとめる |
| 15 | | 講義 | テスト結果の振り返り | 試験の結果を振り返り間違った箇所を復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】「もう迷わないペットの健康ごはん」 | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|----|---|-------------------|
| 科目名 | 動物の健康管理 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 黒葛原 真実 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 講義 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | ドルフィントレーナーとしてふれあい施設に勤務し、現在はダイビングショップ・潜水作業を行う会社を運営している。 | | | | | |
| 授業の学習 内容 | ①水族館等で扱われている海洋哺乳類について知り、その生態や特徴、飼育管理に必要な事を学び理解することができる。 ②水族館、ふれあい施設をはじめその他マリン業界や動物園業界等様々な方向性の中でどのように自分は関わりたいのか、その上では何が必要なのかを見極め、考えていくことができる。 ③授業手法は主に「講義」「筆記」「映像鑑賞」「オリエンテーション」で展開。 | | | | | |
| 到達目標 | ①水族館やふれあい施設等において動物の飼育・管理に関わる上で、扱われている海洋哺乳類の基礎的な生態、健康管理に必要な知識を中心に身につけ実践に役立てることができる。 ②水族館・マリン業界を始め、海に関わる仕事内容を知り理解することができる。 ③座学や業界実習を重ね、二年時に上がる上である程度の方向性を確立できる。 ④『人前で話す力、人に伝える力などのコミュニケーション力』を身につける。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 60% 出席率 40% | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|-------------------------------|------|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 授業の概要・目的説明・目標設定・自己紹介 | | /最も印象に残った自己紹介 |
| 2 | | 講義 | 海洋哺乳類に関わる仕事を考える・知る | | どんな仕事があるかノートに書く/最も興味を持った仕事について調べる(業務内容、年収、なるために必要なこと、資格等) |
| 3 | | 演習 | 伊豆実習 | | ホイッスル練習/レポート |
| 4 | | 講義 | 海の哺乳類 I (鯨類)について理解できる | | 好きな鯨類一種をイラストで描く/ミニテスト |
| 5 | | 演習 | スキンドайビングの習得ができる | | 目標設定/振り返り |
| 6 | | 講義 | 海の哺乳類 II (鰐脚類)について理解できる | | 好きな鰐脚類一種をイラストで描く/ミニテスト |
| 7 | | 講義 | 海の哺乳類 III (海牛類)について理解できる | | 好きな海牛類一種をイラストで描く/ミニテスト |
| 8 | | 講義 | 海の哺乳類 IV (その他の海洋哺乳類)について理解できる | | 日本の水族館で飼育されているその他の海洋哺乳類を調べ書く/ミニテスト |
| 9 | | 講義 | 海の鳥類について理解できる | | 好きなペンギン一種をイラストで描く/ミニテスト |
| 10 | | 講義 | 餌料について理解できる① | | サバ・アジ・サンマ・ホッケ・シシャモを見分ける /上記の魚一種以上を食す、できれば丸魚を見る、触る |
| 11 | | 講義 | 餌料について理解できる② | | 前回の課題の感想・まとめ/ミニテスト |
| 12 | | 講義 | 初期飼育について理解できる① | | 水族館に来るまでの経緯を調べる/まとめ |
| 13 | | 講義 | 初期飼育について理解できる② | | イルカの輸送方法を調べる/まとめ |
| 14 | | 試験 | | | 試験範囲の学習/まとめ |
| 15 | | 講義 | | | 分からなかったところの復習 |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 動物飼育演習 I 1 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江口仁 詞 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-3年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | <p>観賞魚の基本的な飼養管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>淡水の水質を調整し、地域によって異なる環境を作ることができる。 4大観賞魚産地の、代表的な水質を理解する。 その水質を、水道水を元に作るようになる。 海水魚の基本となる人工海水を正しく作るようになる。 窒素還元の循環システムを組み立てることができる。</p> | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p> | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|--|-------|---|---|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | 入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定 |
| 2 | 講義 | 飼育マニュアルの説明から、飼育方法だけではなく、展示の目的、目標、方法を理解することができる。 | 準備学習：入学前オリエンテーションにおける個人目標の策定から、校内での飼育の目的、目標の共通点を確認する。 |
| 3 | 講義・演習 | 魚の正しい扱い方を学び、水槽内での捕獲～酸素を使い安全に輸送できる技術を身に付ける。 | 熱帯魚3200種図鑑を使用しアクアariumの魚種の比較と同定を行う。50～100種 |
| 4 | 講義・演習 | 観賞魚の生息地域の特性から、魚種の特徴を理解する。南米アマゾン流域・東南アジアオセアニア・アフリカ | |
| 5 | 講義・演習 | 観賞魚の飼育水を作れるようになる為に、実験を行い水道水と飼育水の違いを理解する。 | 飼育マニュアルの熟読と実践をアクアariumの飼育当番・補助の作業内で行い、時間外学習に充当する。 |
| 6 | 講義・演習 | 観賞魚の飼育水を管理する為に、実験を通じより効率よく換水を行えるようになる(サイフォン) | |
| 7 | 講義・演習 | 観賞魚の飼育管理を行う為に、実験を通じてPHによる水質の違いを理解する。 | |
| 8 | 講義 | 海水魚の飼育管理を行う為に、塩分濃度を理化して人工海水から飼育水を作ることができる。 | |
| 9 | 講義 | 観賞魚の飼育管理を行う為に、硝化作用とPHの関係を理解し、実践できるようになる。 | |
| 10 | 講義 | 観賞魚の飼育管理を行う為に、水質を変化させる要因を理解し、PHをコントロールできるようになる。 | 観賞魚飼育・管理士ハンドブック8p～15pの熟読と理解 |
| 11 | 講義 | 安定した水質維持の為に、水槽内の窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元 | 指定したロープワークの実践と、夏季休暇中の採取実践を行う。 |
| 12 | 講義・演習 | 魚類の行動の観察方法 野生の魚を捕獲する漁法を知り、ミャク釣りの仕掛けを作る。 | |
| 13 | 講義 | NH3/NO2/NO3の測定方法、比重の計り方を理化し、水質測定が行えるようになる。 | アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。 |
| 14 | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める | 試験範囲からの復習と飼育マニュアルの熟読 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 熱帯魚3200種図鑑/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ | | | |
| ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 動物飼育演習 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江口仁 詞 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-3年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | <p>観賞魚の基本的な飼養管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロになれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>窒素還元の循環システムを組み立てることができる。 代表的な魚病の特徴と発生理由を理解することができる。 代表的な魚病に使う薬品を知り、正しくしようできるようになる。 基本的な機材の管理を身につけ、2019年10月～2020年9月までの飼育管理の中で起るトラブルに対応が出来るようになる。</p> | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p> | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | |
|--|-------|---|---------------------------------|
| 回数 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 講義 | 安定した水質維持のために、自然界における窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元 | アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。 |
| 2 | 講義・演習 | 水槽内でのトラブルの対応 (魚病) 濃度の単位%, ‰, ppmを学び、基本的な薬品の希釈と投薬ができるようになる | 観賞魚飼育・管理士ハンドブック31p～56pの熟読と理解。 |
| 3 | 講義 | 水槽内でのトラブルの対応 (魚病) 白点病/ウーディニウム病の予防と治療を説明できる | |
| 4 | 講義 | 水槽内でのトラブルの対応 (魚病) ミズカビ・細菌感染の予防と治療を説明できる。 | |
| 5 | 講義 | 両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的な有尾目・無尾目の飼育に応用ができる。 | 爬虫類室の飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。 |
| 6 | 講義 | 両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的なカメ目、有鱗目の飼育に応用ができる。 | |
| 7 | 講義 | 観賞魚・両生爬虫類の生き餌の飼育管理を正しく行い、安全に保管できる方法を実践できる。 | 観賞魚飼育・管理士ハンドブック43p～49pの熟読と理解。 |
| 8 | 講義 | 野菜・冷凍餌・配合飼料の管理と基本的な保管方法と調餌方法、衛生管理が行えるようになる。 | オーストラリアへの海外研修を持って充当する。 |
| 9 | 講義・演習 | オーストラリア・オセアニア地域の魚類・両生爬虫類を学び、飼育管理に生かすことができる。 | |
| 10 | 講義 | ガラス水槽とアクリル水槽の特徴と違いを学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。 | 理解と提出レポートの作成 |
| 11 | 講義 | ガラスとアクリルの基本的な管理・加工を学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。 | |
| 12 | 講義 | 塩パイプによる配管の方法と加工を学び、飼育管理に活用することができる。 | アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。 |
| 13 | 講義 | エアーポンプとフロアーのメンテナンスを学び、飼育管理に活用することができる。 | |
| 14 | 講義・試験 | テスト対策・60分の筆記試験 | 試験範囲からの予習と対策 |
| 15 | 講義 | テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める | アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | |
| 鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック／鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可す | | | |
| 東京コミュニケーションアート専門学校 | | | |

| | | | | | | |
|---------|--|----------|----------|----|---|-----------|
| 科目名 | 馬学 I 1 | 必修 選択 | 選択 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 長嶺幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-2年制 | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 | |
| 教員の略歴 | 牧場、ペットショップスタッフ経験を経て、現在は移動動物園スタッフとしても活動中。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 馬を扱う業種は牧場、観光牧場、動物園、移動動物園、乗馬クラブ、ペットショップなど、多岐にわたり、基本的な知識や取扱を学ぶことは必須事項の一つである。また、馬は、畜産動物の中でも、人との関わり方が特殊であり、大型動物を扱う上での基礎を学ぶことに繋がる。馬をできるだけ理解しようと努め、適切な取扱と飼養管理ができるようにするため、映像や実物の馬具、ロープワークなどを取り入れ、経験したことを実例としながらわかり易い内容にする | | | | | |
| 到達目標 | 人との関わりや歴史、習性や行動を含む生態などの理解。馬体名称や個体識別法、悪癖などを理解し、基本的な管理ができる。仕事に必要なロープワーク技術を身につける。馬具を知り、適切に使用できる。これらの内容を踏まえ、基本的な知識と技術を習得し、適切な取扱と飼育管理ができることを目標とする。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---|----|------|------------------------------|-----------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | | 講義 | 馬と人の関わりについて理解できる | 馬について自分で持つイメージを一言でまとめる | |
| 2 | | 講義 | 馬の分類・品種などについて理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む | |
| 3 | | 講義 | 馬の食性と飼料について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む | |
| 4 | | 講義 | 馬の食性以外の習性について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む | |
| 5 | | 講義 | 感覚器の構造と特徴について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 6 | | 講義 | 馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 7 | | 講義 | 馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる。 | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 8 | | 演習 | ロープワーク技術を身につける。 | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 9 | | 演習 | ロープワーク技術を身につける。 | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる | |
| 10 | | 講義 | 飼養する馬の登録について理解できる | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる | |
| 11 | | 講義 | 馬の個体識別方法について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 12 | | 講義 | 馬の悪癖について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 13 | | 講義 | 馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む | |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む | |
| 15 | | 講義 | 乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|------|-------------|---|------|------|
| 科目名 | 馬学 I 2 | 必修 選択 | 選択必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 牧場、ペットショップスタッフ経験を経て、現在は移動動物園スタッフとしても活動中。 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 馬を扱う業種は牧場、観光牧場、動物園、移動動物園、乗馬クラブ、ペットショップなど、多岐にわたり、基本的な知識や取扱を学ぶことは必須事項の一つである。また、馬は、畜産動物の中でも、人との関わり方が特殊であり、大型動物を扱う上での基礎を学ぶことに繋がる。馬をできるだけ理解しようと努め、適切な取扱と飼養管理ができるようにするため、映像や実物の馬具、ロープワークなどを取り入れ、経験したことを実例としながらわかり易い内容にする | | | | | | |
| 到達目標 | 人との関わりや歴史、習性や行動を含む生態などの理解。馬体名称や個体識別法、悪癖などを理解し、基本的な管理ができる。仕事に必要なロープワーク技術を身につける。馬具を知り、適切に使用できる。これらの内容を踏まえ、基本的な知識と技術を習得し、適切な取扱と飼育管理ができることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法 と基準 | 定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|------------------------------|-----------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 馬と人の関わりについて理解できる | 馬について自分で持つイメージを一言でまとめる |
| 2 | | 講義 | 馬の分類・品種などについて理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 3 | | 講義 | 馬の食性と飼料について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 4 | | 講義 | 馬の食性以外の習性について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 5 | | 講義 | 感覚器の構造と特徴について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 6 | | 講義 | 馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 7 | | 講義 | 馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる。 | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 8 | | 演習 | ロープワーク技術を身につける。 | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 9 | | 演習 | ロープワーク技術を身につける。 | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる |
| 10 | | 講義 | 飼養する馬の登録について理解できる | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる |
| 11 | | 講義 | 馬の個体識別方法について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 12 | | 講義 | 馬の悪癖について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 13 | | 講義 | 馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む |
| 15 | | 講義 | 乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|--------|-------------|---------|------|----------|
| 科目名 | 野生動物救護法 I 1 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年 | 担当教員 | 長嶺幸 介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼-2年 | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 45 1 | | |
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、総合ペットショップ勤務、現在は生態科学研究機構副理事長。移動動物園、動物関連番組の監修等をしている | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 動物看護の分野は、ペットの分野だけでなく、野生動物の救護や動物園等の展示動物の診療をする病院での仕事など広がりを見せている。そうしたことから野生動物について学ぶ必要性が高まっている。この授業では「日本の野生動物の種類と保全について」と「動物園等の展示動物についてと保全や役割などについて」学び基本を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本に生息する野生動物の種類と特徴の概要を説明できる。 ・野生動物が関わる問題と保全の概要について説明できる。 ・飼育下繁殖と動物園の役割を説明できる。 ・野生動物獣医療の概要を説明できる。 ・野生動物の福祉上の問題点とその対策を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------------------------|----|------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 導入(授業について)日本の野生動物について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 2 | | 講義 | 野生動物の種類と特徴について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 3 | | 講義 | 野生動物と傷病動物 | 授業の復習(ノート整理) |
| 4 | | 講義 | 野生動物の保全(野生動物とは) | 授業の復習(ノート整理) |
| 5 | | 講義 | 野生動物の保全(調査法と環境) | 授業の復習(ノート整理) |
| 6 | | 講義 | 野生動物の保全(人の暮らしとの関連) | 授業の復習(ノート整理) |
| 7 | | 講義 | 野生動物の保全(動物園) | 授業の復習(ノート整理) |
| 8 | | 講義 | 野生動物の保全(水族館) | 授業の復習(ノート整理) |
| 9 | | 講義 | 野生動物の保全(関連法規) | 授業の復習(ノート整理) |
| 10 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物救護について学ぶ | 授業の復習(ノート整理) |
| 11 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物の病気と事故 | 授業の復習(ノート整理) |
| 12 | | 講義 | 野生動物の福祉① 野生動物の福祉について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 13 | | 講義 | 野生動物の福祉② 希少動物やエキゾチックペットの商業取引について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 14 | | 定期試験 | 筆記試験 | 前期まとめと整理 |
| 15 | | 講義 | 振り返りとまとめ | 試験見直しとわからないところの確認 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて随時、書籍を使用。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|---|------|----------|
| 科目名 | 野生動物救護法 I 2 | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺幸 介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 昼二2年制 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 1 | | |
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、総合ペットショップ勤務、現在は生態科学研究機構副理事長。移動動物園、動物関連番組の監修等をしている | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 動物看護の分野は、ペットの分野だけでなく、野生動物の救護や動物園等の展示動物の診療をする病院での仕事など広がりを見せている。そうしたことから野生動物について学ぶ必要性が高まっている。この授業では「日本の野生動物の種類と保全について」と「動物園等の展示動物についてと保全や役割などについて」学び基本を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・日本に生息する野生動物の種類と特徴の概要を説明できる。・野生動物が関わる問題と保全の概要について説明できる。・飼育下繁殖と動物園の役割を説明できる。・野生動物獣医療の概要を説明できる。・野生動物の福祉上の問題点とその対策を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------------------------|----|------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 導入(授業について)日本の野生動物について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 2 | | 講義 | 野生動物の種類と特徴について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 3 | | 講義 | 野生動物と傷病動物 | 授業の復習(ノート整理) |
| 4 | | 講義 | 野生動物の保全(野生動物とは) | 授業の復習(ノート整理) |
| 5 | | 講義 | 野生動物の保全(調査法と環境) | 授業の復習(ノート整理) |
| 6 | | 講義 | 野生動物の保全(人の暮らしとの関連) | 授業の復習(ノート整理) |
| 7 | | 講義 | 野生動物の保全(動物園) | 授業の復習(ノート整理) |
| 8 | | 講義 | 野生動物の保全(水族館) | 授業の復習(ノート整理) |
| 9 | | 講義 | 野生動物の保全(関連法規) | 授業の復習(ノート整理) |
| 10 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物救護について学ぶ | 授業の復習(ノート整理) |
| 11 | | 講義 | 動物看護師と野生動物 野生動物の病気と事故 | 授業の復習(ノート整理) |
| 12 | | 講義 | 野生動物の福祉① 野生動物の福祉について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 13 | | 講義 | 野生動物の福祉② 希少動物やエキゾチックペットの商業取引について理解する | 授業の復習(ノート整理) |
| 14 | | 定期試験 | 筆記試験 | 前期まとめと整理 |
| 15 | | 講義 | 振り返りとまとめ | 試験見直しとわからないところの確認 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて随時、書籍を使用。 | | | | |